



# JAAGA だより

日米エアフォース友好協会  
Japan-America Air Force Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会  
〒160-0002  
東京都新宿区四谷坂町9番7号  
ZEEKS 四谷坂町ビル 3F  
編集：JAAGA 事務局  
印刷：東伸社  
ホームページ：<http://www.jaaga.jp/>



## 杉山良行新会長 就任挨拶 Gen (Ret.) Yoshiyuki Sugiyama assumes President of JAAGA on 14 May 2021

皆様こんにちは

この度、2021 年度総会において会員の皆様方の承認を受け、日米エアフォース友好協会（JAAGA：Japan-America Air Force Goodwill Association）第 12 代会長に就任いたしました杉山良行です。

JAAGA は 1996 年創設以来、航空自衛隊の OB 会員及び賛同される会員の方々に構成する組織として、日米空軍種間における一層の協力と相互理解の推進に寄与すべく各種活動を行ってまいりました。

インド太平洋地域を巡る安全保障環境は時を経るごとに厳しさを増し、これまでになかったほどの緊張感の中

にあります。そのような中において日米同盟は両国のみならず同地域の安定と繁栄を支える礎となっており、今後、更なる協力関係の強化が期待されています。協力関係の一翼を担う両国空軍種の現役隊員の地道で継続した活動、活躍には敬意を表するところですが、これを様々な面から支援していくことが JAAGA にとって最も重要な役割であると認識しています。

昨年来、コロナ禍の中、JAAGA としてなかなか思っていたような活動ができていませんが、そうした中でも両国空軍種の強固な紐帯実現のため、新たな環境に適応、模索しながら活動の実を挙げたいと考えているところです。会員の皆様方のご尽力、活動への積極的な参加を頂きますようお願い申し上げます。

令和 3 年 5 月 14 日

第 12 代 日米エアフォース友好協会会長 杉山 良行

## 2021 年度（令和 3 年度）JAAGA 総会 開催 JAAGA Annual Convention held on 14 May 2021

令和 3 年 5 月 14 日（金）15 時からグランドヒル市ヶ谷「芙蓉の間」において、令和 3 年度総会が開催された。

今回は、昨年度と同様に新型コロナウイルス禍の影響を受け、通常の形での総会実施が叶わず、各会員への事

前の資料送付による審議、ハガキ返信による議決権行使／委任、承認／不承認を確認・集計した上で、最少の出席者に絞った役員・筆頭理事等による審議を経て、議決される形となった。

### ～ 【第 60 号】 目 次 ～

杉山良行新会長就任挨拶	1	航空自衛隊コーナー	20
JAAGA総会	1	米空軍コーナー	22
コープ・ノース21参加部隊激励・訓練参加所感	6	AFA主催バーチャル・カンファレンス（空自説明）	23
第5空軍に非接触型体温計贈呈	9	AFA主催バーチャル・カンファレンス（参加成果：その2）	24
令和2年度日米優秀隊員表彰	10	投稿募集のご案内・賛助会員の皆様へ	31
スペシャルオリンピックス支援	14	JAAGA理事の活動紹介～渉外理事	32
トーマス・ノブオ・ハセベ氏叙勲	16	令和3年度JAAGA事業計画	34
T-38事故殉職操縦士に弔意	16	令和3年度JAAGA役員・退任者	35
テキサスの母「ユキエさん」を偲ぶ	17	新入会員紹介	35
ブラウン名誉会員に委嘱盾贈呈	17	会員募集	36
米空軍中将航空自衛隊勤務だより	18	編集後記	36



“Hybrid style” JAAGA Annual Convention



Some regular members and directors observe the deliberation of agenda remotely for preventing COVID-19

会場は、コロナ対策として、役員等席の机上にはアクリル板が設置されるとともに、会場全体に互りソーシャルディスタンスを確保した配席とされた。また、新たな試みとして、リモート会議ソフトを使用した審議状況等の配信が行われ、希望した正会員4名、監事1名及び理事6名の計11名がネットを介して参加した。

こうした新たな試みの成功を期し、総務理事、広報理事等が早めに会場入りし、PC等器材セット及びリモート会議ソフトを通じた参加者との通信セットアップ、カメラアングルやマイクテスト等が入念に行われた。

総会は15時に始まり、前原総務理事の司会により、以下の議事項目の順で審議され、全議案が案のとおり議決された。

### 1 開会の辞

### 2 黙祷

令和2年11月16日ご逝去された名誉会員であった故ジョン B. ホール様、令和3年3月24日ご逝去された故伊藤惇様のご冥福を祈り、黙祷が捧げられた。

### 3 会長挨拶



President Saitoh presides over the meeting

齊藤会長から「今日は暑い中お集まりいただき有難うございます。昨年令和2年4月以降、我が国で感染症により緊急事態宣言が発出されて、日本中の大きな動きが止まってしまいました。それを反映して昨年は残念ながら、本来であれば実施するJAAGAの総会、米側の司令官等による講話、現役関係者等を含めた親睦を深めあう

懇親会ができませんでした。現状コロナはまだまだ終息が見えていません。変異型ウイルスがいつそう拡散されているとも報道されています。本日は代表の役員・理事等という限られた形ですが、結果的に総会を開催することができました。当初はこの形でさえ実施することは不可能ではないかと思いましたが、福江理事長等と色々な意見交換をして、何とかギリギリこの形なら蔓延防止等も踏まえて開催することは適当であろうと判断しました。これから先もまだ分かりません。とはいえ、年度を通しての考え方、昨年度の決算等を踏まえた計画を作成して活動を継続していくことには変わりはありません。その中心的な考え方としては、「出来る事を出来る形で実施していく」ということです。今まで実施していなくても、実施できるならば実施していきたいと思います。例えば米軍支援について、我々だけでなく米軍側も必要としているだろうということで非接触型体温計を贈呈しました。また本日は試行的に一部視聴を希望される方にはZOOMという形で展開しています。このZOOMは各種打ち合わせ、役員会等で非常に便利に活用しており、今後についてもこのような活用を継続しようと思っています。昨秋、我々JAAGA訪米団は残念ながら訪米できませんでしたが、AFA会長以下名誉会員の方々等20数名と日米での太平洋を越えたZOOMでのミーティングを実施しました。こういった新しい形での日米の交流もありだということで今後も継続していきたいと思っています。それでは、色々な議案等ありますので、十分に確認し、質問等を遠慮せず、十分に議論してもらいたいと思います。よろしく願います」との挨拶を頂いた。

### 4 議案審議

司会から「会則第9条の2第1項において、総会は正会員の1/3以上の出席により成立し、議決は出席者の過半数の同意によると規定されているところ、本日



Director Maehara facilitates the meeting

現在の正会員数 257 名、郵送による議決権行使 29 名、議長への議決権委任者の 228 名で 100%の出席者となっており、本総会の成立条件が満たされている」旨が報告された。以降の議案審議については、会則に則り、齊藤会長が議長を務め、整齊と進行された。

【第 1 号議案 令和 2 年度事業報告 (案)】

平本企画理事から「COVID-19 感染拡大の影響から人的接触が制約され、計画された各種事業の多くが中止・取止め、または変更を余儀なくされるなかで、各種の工夫を凝らして事業の推進を図り、航空自衛隊と米空軍との相互理解及び友好親善の増進に努めた」との事業実績の概要、3.3.31 現在の会勢「正会員 257、個人賛助会員 88、団体賛助会員 2、法人賛助会員等 34、名誉会員 19、計 400」が報告された。



Planning director Hiramoto explains the first item on the agenda

続いて、計画した事業の多くが中止される中、感染防止を万全にしつつ創意工夫をもって実施された次の事業等が報告された。

- ・コープ・ノース 21 参加隊員の激励のため航空総隊、航空支援集団を訪問
- ・日米隊員の表彰については、例年の会長執行による表彰式を、日米それぞれの基地司令等による「表彰伝達式」の形で実施
- ・計画外事業として、第 5 空軍のコロナ対策支援事業（非接触型体温計×12 の贈呈）を実施
- ・米軍三沢基地司令官交代式に三沢支部から出席
- ・米空軍協会 (AFA) 総会への参加は、同総会がバーチャル・カンファレンスとなったため、訪米を取り止め、リモートによる日米親善交流会を実施するとともに、バーチャル・カンファレンスに参加し、幹部学校、空幕において報告会を実施
- ・米空軍慶弔への対応として、名誉会員ホール中将の逝去及び T-38 操縦教官の殉職に弔意を伝達したほか、クリスマスカードについては例年通り送付
- ・会誌について、第 58 号及び 59 号を発行・配布。同会誌に、「米空軍コーナー」を設け、第 5 空軍からの情報提供に基づき記事を掲載
- ・一般広報として、ホームページの運営、グッズの贈与を継続

・総会については、郵送方式により実施し、全議案承認。なお、例年総会に併せて実施してきた記念講演、懇親会は取り止め

- ・会員名簿を作成、配布
- ・役員会、理事会については、メール、リモートを活用して実施

・令和 3 年 4 月に会計及び物品監査を実施

○質疑応答

Q: 昨年度の横田基地等への研修が取り止められた理由は、米軍が受け入れを拒んだためでしょうか。

A: 同研修に関わるキャンセル料が発生する時点で、研修当日の基地への立ち入り制限の解除が見通せなかったため取り止めました。米軍が拒んだという事情ではありません。

※ 第 1 号議案は、案のとおり議決された。

【第 2 号議案 令和 2 年度決算報告 (案)】

宮本財務理事から「会費の納入状況は良好な状況であった。コロナ禍の影響により、総会、共同訓練（コープ・ノース 21 を除く）、友好親善行事及び基地研修等、3 密の恐れのある行事はほぼ中止となったが、コロナ対策に係る時宜にかなった米軍支援として、『非接触型体温計』を第 5 空軍司令官に贈呈する等、機動的な業務を実施した」と報告された。

続いて、収入及び支出の細部が報告され、「会費の納入率は約 100%」であること、支出においては、「予算執行率約 55%で、運営管理費の執行率は約 93%であったものの、事業費は約 38%の執行率となった」ことが報告された。また、「創立 30 周年記念のための積立 30 万円を実施し、累計 120 万円 (H29 年度から継続) となった」ことが報告された。

続いて、山本監事から「会計監査において財務の報告のとおり異常の無いことを確認した」ことが報告された。

○質疑応答

Q: 昨年度の支出は、計画の半分ほどですが、コロナ禍においてはこのような傾向が続くのでしょうか。



The second item is explained by Finance director Miyamoto(↑), and Auditor Yamamoto(↓) makes an audit report



A: 運営管理に関わる経費及び 30 周年積み立ては確実に支出されます。また、だよりの発行等、コロナ



Some attending JAAGA directors ask questions for regular members



The meeting is held with several countermeasures to prevent COVID-19

禍においても 3 密を避けた事業により、JAAGA の設立目的を達成できます。したがって、このような傾向が続くと考えていますが、支出額については、昨年度の実績が確実な支出の目安となると考えています。

※ 第 2 号議案は、案のとおり議決された。

### 【第 3 号議案 令和 3 年度事業計画 (案)】

平本企画理事から「当面、継続が予期されるコロナ感染拡大防止の環境において、様々な工夫を凝らしつつ各種事業の実施に努めることにより、航空自衛隊と米空軍との相互理解及び友好親善の増進に寄与するとともに、会勢の拡大等運営管理態勢の更なる充実を図る」との事業運営方針が報告され、令和 2 年度当初計画と同様の計画案としたこと、ただし、総会については、郵送による議案審議とし、会場参加は役員・理事に限定、また、ZOOM での配信を併用して現在実施している旨が報告された。

○質疑応答

Q: 本年度もコロナの影響が続くものと予想されますが、昨年度同様、AFA 訪米は最初からバーチャル参加で計画してはいかがでしょうか。

A: AFA 総会をバーチャル形式で実施するか、あるいは通常の形式で実施するのかの判断は AFA が行い、現段階では決定されていません。まずは訪米を前提としつつ、AFA の判断、海外渡航の適否等を見据えて対応していきたいと思えます。

※ 第 3 号議案は、案のとおり議決された。

### 【第 4 号議案 令和 3 年度徴収会費の変更 (案)】

前原総務理事から「令和 2 年度、コロナ禍の影響により

部隊研修、SPORTEX 等の主要事業が見送られ、会員が参加する事業が中止・延期されたことから、令和 3 年度に徴収する会費を減額する」という趣旨で「令和 2 年度予算 (約 420 万円) のところ、決算での執行額は約 230 万円であったため、令和 3



General Affairs director Maehara, on agenda item 4

年度の会費収入を令和 2 年度の執行額分相当とし、2 年度での余剰金と併せて例年通りの収入額を確保する」との目的・経緯が報告された。具体的には、正会員の会費を一人当たり 1,000 円減額し、賛助会員の会費を半額とすることが報告された。

○質疑応答

Q: 正会員が 1,000 円の減額で、賛助会員が半額に減額することについて、今一度説明願いたい。

A: 決算のとおり令和 2 年度予算総額が当初予算約 420 万円のところ、執行額は約 230 万円で執行率は約 55% でした。執行率が 50% であれば、全会費を半額とすることが可能でしたが、多数の賛助会員が参加する部隊研修や SPORTEX 等が中止となり、一方、会を維持する運営管理費の執行率が約 93% であることから、正会員にこの執行額 5% 分を負担していただくこととし、賛助会員を半額、正会員を 1,000 円減額としました。

※ 第 4 号議案は、案のとおり議決された。

### 【第 5 号議案 令和 3 年度予算 (案)】

吉川財務理事から「効率的な予算執行及び的確な会費徴収により、良好な財務状況を維持 (令和 3 年度への繰越: 約 1,070 万円) しており、令和 2 年度の執行状況 (約 55%) に鑑み、本年度会費は正会員 1,000 円、賛助会員半額を減額徴収する、また創立 30 周年記念行事に向け、平成 29 年度から当面 5 年間、30 万円/年を積立する」との財務状況の分析に基づき、「①活動の再開に備え、各事業を効果的かつ着実に実施し得る予算を編成・減額された会費収入に令和 2 年度未執行分を加え、収支を合わせる、②過去の執行状況を分析し、新規を含め適切な予算を積算する、③創立 30 周年記念行事の積立 (30 万円/年) を継続する」との予算編成方針が報告された。

○質疑応答

Q: 繰越額が前年度に比べて、大幅に減っていますが大丈夫でしょうか。

A: 前年度繰越金には、昨年度未執行額の約 200 万円が含まれています。この未執行分と減額した会費収入で収支を合わせていますので問題はありません。

※ 第 5 号議案は、案のとおり議決された。

### 【第 6 号議案 議案役員の選任 (案)】 (敬称略)

齊藤議長から、令和 3 年度役員の選任案「会長: 杉山良行 (新任)、副会長: 谷井修平 (継続)、福江広明 (新任)、上田知元 (新任)、監事: 内山隆弘 (新任)、山本祐一 (継続)」が提示された。

※ 満場一致で議決された。

以上のように、第 1 号議案から第 6 号議案を通して円



Finance director Yoshikawa, on agenda item 5



President Saitoh has fulfilled the duty, then remains as an advisor

滑かつ活発な審議が行われ、全ての議案が案のとおり議決された。

また、その他報告として福江理事長から、役員会で選任された5名の新理事「岡本兼一、野澤隆一、竹内由則、三谷直人、増子豊」が報告された。

### 5 新役員等、退任者、顧問委嘱の紹介

杉山新会長から「総会お疲れさまでした。まずは前任の齊藤会長へ。約2年間、後半は深刻化するコロナ禍において色々と苦勞されながら貢献していただいたことに対して、JAAGAの全会員を代表して感謝の気持ち、敬意を表したいと思います。これからもご助言ご指導を賜りますようお願いいたします。

さて、JAAGAは今年で25年になります。この25年を振り返ってみますと、日米の現役隊員を支援するということが一番の目的であったと思います。その中で、日米空軍種の活動を通じて日米関係あるいは日米同盟の深化・強化に貢献するということを目指してきた歴史だと思います。今、日米関係・日米同盟は皆さんご案内のとおり非常に良好な状態にあります。日米関係・日米同盟はガーデニングにも例えられるように移ろい易く、常に手入れを必要とすることから、多重的・多層的な関係構築が肝心であり、JAAGAはその一翼を担ってきたと感じています。

今、日本周辺、アジア、インド太平洋地域は大変な状況にあることは既に皆さんご案内のとおりだと思いますが、そんな中で、先月、日米首脳会談が行われて、変わらず日米同盟が両国だけではなく、この地域のコーナーストーンであることが再確認されたものと考えています。ただ一つ違うことは今、日米同盟に求められることは言葉だけではなく、どんな態度でどんな行動をするか、そしてしっかりとした成果を出すことが求められている、まさに日米同盟の新しい深化を問われる時期だと認識しています。もちろんJAAGAが何らかの意思決定に係ることはありませんが、これまでの歴史やノウハウ、あるいは人的な資産を使って、JAAGAとしてやるべき事、やれる事はあるのではないかと考えているところ、私もJAAGAの会長になり、最大限色々なことをやっていきたいと思っています。

他方、齊藤会長から冒頭ありましたように、コロナについては引き続き長期化することが予想されます。ワク

チンの影響などもあり、更に状況が複雑化することが考えられますが、その都度状況を確認しながら、会長として必要な時には必要な決心をし、工夫しながら柔軟に対応していきたいと思っております。

ただ私自身がどんなに頑張ろうとも一人では対応できないのは事実です。会員の皆様にはこれまで同様、ご理解、ご協力、ご支援のほどを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます」との挨拶を頂いた。

続いて、司会から以下のとおり新役員等が紹介されるとともに、理事の所掌分担について報告された。

#### 【新役員】（敬称略）

会長：杉山良行、副会長：福江広明、上田知元、監事：内山隆弘、理事長：小野賀三、副理事長：前原弘昭

#### 【新理事】（敬称略）

岡本兼一、野澤隆一、竹内由則、三谷直人、増子豊  
引き続き、これまでの会務運営への貢献に感謝の意を表しつつ、退任される役員及び理事の紹介が行われた。

#### 【退任者】（敬称略）

会長：齊藤治和、副会長：中島邦祐、清藤勝則、監事：日吉章夫、理事：阪東政詮、伊藤哲

また、併せて顧問の委嘱についても紹介された。

#### 【顧問の委嘱】（敬称略）

齊藤治和、清藤勝則、丸茂吉成

### 6 閉会の辞

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

コロナ禍の制約を受けた中での総会となり、最少の参加陣容ではあったものの、質疑応答を含め1時間に亘る丁寧な審議が行われ、令和3年度の事業・予算・役員人事等が案のとおり議決された。

今年度もコロナ禍の影響を大きく受ける諸活動となるが、今総会において新たに試みられたリモート会議ソフトによる会員等との情報共有・連携に見られたような、その時々状況に適した対応が採れるよう、今後も柔軟な発想を持って諸事に備えることが重要である。

（太田理事記）



New president Sugiyama makes an inaugural speech for JAAGA members



Incoming & outgoing JAAGA officers in the hall are introduced one by one



## コープ・ノース21における日米豪共同訓練等参加部隊を激励 JAAGA cheers Koku-Jieitai participants to Cope North 21



JAAGA Chairman Fukue and Director Yamada call on ;  
 (←) Lt Gen Uchikura, Commander of Air Defense Command & Maj Gen Araki, Chief of Staff, in Yokota AB on 15 Feb. 2021  
 (→) Lt Gen Kaneko, Commander of Air Support Command in Fuchu AB on 22 Jan. 2021



福江理事長（山田理事同行）は1月22日（金）、府中基地に航空支援集団司令官金古真一空将（幕僚長北村靖二一等空佐同席）、同年2月15日（月）横田基地に航空総隊司令官内倉浩昭空将（幕僚長荒木哲哉空将補同席）を訪ね、「コープ・ノース21」（Cope North 21 : CN21）における「日米豪共同訓練」及び「日米豪仏人道支援・災害救援共同訓練」に参加する航空総隊及び航空支援集団の部隊に対する JAAGA からの激励品を手交し、訓練の成功を祈念した。

今回で 22 回目となる共同訓練は、コロナ禍で多くの制限の下で実施されたが、仏軍が初めて参加する訓練であり、両司令官からは「今回の CN21 がコロナ禍において実施されること、日米のみならず豪および仏と共に訓練することは、大きな意義がある」との主旨の弁があった。

航空総隊司令官から、訓練終了後、以下の謝辞を頂いた。

「時下、JAAGA の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

お陰様を持ちまして、CN21 を無事に終えることができました。今年の訓練の完遂には格別の喜びと達成感があります。なぜならコロナ禍において感染防止を図る「Stay safe」と、精到な訓練を敢行する「Train hard」を両立できたからです。計画段階から英知と経験を結集し、感染症対策のための停留等を含めた実効性のある展

開・訓練方法を導き出し、それを高い規律心、勇気及び結束力で実践した全ての参加者に心から敬意を表しますとともに、まさに「今できることに、ベストを尽くした」彼等、彼女等を誇りに思う次第です。

さて、中国の海空域における活動が拡大・活発化する中、いわゆる第2列島線を形成するグアム島の地政学的意義は一層高まっております。それに伴い同島及び周辺空域における日米豪共同訓練もその重要性が増しております。つきましては諸課題を克服しながら、更なる高みを目指すべく、日々の任務と訓練に真摯に取り組んでまいり所存です。

むすびに、CN21 に際し、JAAGA の皆様から賜りました物心両面のご厚情に対し、あらためて衷心よりお礼申し上げますとともに、貴会の益々の繁栄と会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします」

航空支援集団司令官からは、「昨年12月のクリスマス・ドロップでも感じたことですが、日米そして豪や他の友好国との共同訓練の実施は、本来の目的である共同対処能力や戦技技量の向上を図ることに加え、日米同盟と友好国との強固な関係を示すとともに、アジア太平洋地域の平和と安定のための強いメッセージでもあると認識しています」とのコメントと合わせ、JAAGA からの支援に対する謝辞を頂いた。

（山田理事記）



Grand Photo : Airmen from Koku-Jieitai, U.S. Air Force, and Royal Australian Air Force stand in formation together to start CN21, 16 Feb. 2021, Andersen Air Force Base, Guam  
 Photo by Koku-Jieitai

## 寄稿

## 「コープ・ノース 21 (CN21) に参加して」

### CN21 訓練実施部隊指揮官 1等空佐 門田 大輔

#### (第2航空団飛行群司令)

CN21 参加部隊に対する激励に深く御礼申し上げます。全国から集まった参加隊員が改めて気を引き締めて訓練に臨み、所要の訓練目的を達成することができました。

ご存じのとおり、CN21 はグアムでの日米豪共同訓練の意義と重要性から、このコロナ禍にあってあえて実施されたものです。当然ながら、コロナは準備段階のみならず展開後も訓練に影響を与えました。そのため、日米豪は、コロナ患者発生時の対応や、部隊活動に制約が生じる場合の訓練の優先順位などについて協議を続けるとともに、部隊や隊員レベルにおいても、アセットや能力を出し合って互いに協力しました。

このコロナという共通の脅威を克服するための活動はまさに3カ国の共同作戦であり、指揮官、幕僚及び部隊にとって共同対処能力と相互運用性を向上する絶好の訓練となりました。また、個々の隊員にとっても米豪と共に困難を乗り越えて訓練を成功させるという、他では得難い経験となりました。その結果、日米豪の絆もこれま

でに増して深まったと考えています。

訓練に関しては、空自は人道支援・災害救援共同訓練やF-2による実爆訓練を、新たな試みを取り入れつつ実施したほか、F-15戦闘機訓練隊による多数機戦闘訓練や警備訓練隊による警備訓練などを行いました。また、米空軍はF-35をCNに初めて参加させるのみならず、実機によるACE (Agile Combat Employment) 訓練を行うなどしました。これらの訓練を通じ、空自参加部隊の共同対処能力のレベルや向上すべき能力を把握したほか、米豪空軍の優れた企画運営・作戦指導能力や教訓収集態勢など多くの教訓を得ることができました。

最後に、訓練実施部隊指揮官として、CN21において日米豪隊員が献身的に訓練に取り組み、困難を乗り越えて団結し、能力を大きく伸展させたことを報告するとともに、参加隊員一同、今回の成果を糧に、新たな挑戦を喜びとして今後の勤務に励みたいと考えています。引き続きご指導を頂けますと幸いです。



F-2 got air refueling from KC-767 and headed to operation



Koku-Jieitai - USAF exchange programs for F-15 maintenance



Photos by Koku-Jieitai

#### 訓練概要 (航空自衛隊 HP より抜粋)

##### 1 日米豪共同訓練

- 目的：日米豪の共同訓練を実施し、実戦的訓練環境の下、日米共同対処能力及び部隊の戦術技量の向上を図る
- 期間：(展開、撤収等を含む) 令和3年1月18日(月)～2月28日(日)
- 場所：アメリカ合衆国グアム島アンダーセン空軍基地、ファラロン・デ・メディニラ空対地射撃場並びに同周辺空域、パラオ共和国バベルダオブ島ロマン・トメトゥチュエル国際空港及びアンガウル島
- 参加部隊
  - ・航空総隊：第2航空団(千歳)、第8航空団(築城)及び警戒航空団(浜松)
  - ・F-15J/DJ×6機、F-2A×3機及びE-767×1機(人員約150名)
  - ・航空支援集団：第3輸送航空隊(美保)C-2×1機(人員約100名)
- 訓練項目：防空戦闘訓練、戦術攻撃訓練、対戦闘機戦闘訓練、空対地射撃爆撃訓練、電子戦訓練、空中給油訓練、地上給油訓練、戦術空輸訓練、航空輸送訓練、物料投下訓練、警備訓練、後方機能(燃料)訓練

##### 2 日米豪人道支援・災害救援共同訓練

- 目的：人道支援・災害救援活動に係る日米豪の共同訓練を実施し、米豪空軍との相互運用性の向上を図る
- 期間：令和3年1月18日(月)～2月28日(日)
- 実施場所：「日米豪共同訓練」に同じ
- 参加部隊
  - ・航空総隊：基地警備教導隊(百里)(人員約10名)
  - ・航空支援集団：第3輸送航空隊(美保)C-2×1機(人員約100名)
- 訓練項目：航空輸送訓練、物料投下訓練、航空患者搬送訓練及び飛行場応急復旧訓練

寄稿

「コープ・ノース 21 (CN21) への参加所見」  
 統合幕僚監部運用部運用第2課災害対策調整官 1等空佐 山本 仁  
 (当時 航空支援集団司令部運用課長)

この度 JAAGA だよりへの寄稿という貴重な機会を頂きましたので、簡単ではありますが、本年2月3日から2月19日までグアムにて実施された CN21 に参加した所見を述べさせていただきます。



Col Yamamoto chats with U.S. and Royal Australian commander's staffs



Group photo of HA/DR training members

CN21 は、グアムでの共同訓練の意義と重要性から、コロナ禍にあってもあえて実施されたものです。私は航空支援集団司令部防衛部運用課長として、航空支援集団から参加した3つの部隊（輸送機訓練隊、即応機動訓練隊及び機動衛生訓練隊）の訓練統制官ということで、航空支援集団司令官の指揮の下、訓練実施部隊を現地にて統制しました。特に、今回は人道支援・災害救援

なお、2月18日、豪国防省は、ウェブサイト上に「Trilateral training for disaster relief」と題し、CN 演習において航空自衛隊が初めて人道支援・災害救援共同訓練を主導したという記事を掲載しました。このニュースは、在オーストラリア日本国大使館を通して日本側にも共有されました。

( HA/ DR: Humanitarian Assistance and Disaster Relief) 共同訓練において、航空自衛隊が CN 演習史上、初となるリード・プランナーとなり、計画立案から実行まで一連の過程を統括し、私自身が参加国を代表して HA/DR 訓練指揮官を務めました。私自身初めての経験であり、また、コロナ禍での訓練でもあり、不安もありましたが、一人一人の隊員がコロナ感染症対策として決められたことを確実に守り、各々の任務・役割を責任感を持って積極的に果たしてくれたお陰で無事に訓練を成功させ、成果を挙げることができました。また、今回は航空自衛隊の初の試みである訓練（パラオ・アンガウル不整地離着陸場への物料投下、アンダーセン空軍基地の北西に位置する米軍が戦時中に作った簡易的な滑走路 (NWF: North West Field) での C-2 輸送機の離着陸及び燃料移送訓練、機動衛生ユニットを用いた患者搬送訓練等) も実施でき、コロナ感染症対策で訓練規模の縮小や各種制限はあったものの、これまで以上の訓練成果があったと感じています。

今後の抱負として、今回の訓練で築いた米豪空軍の隊員との強固な絆、人間関係を様々な防衛協力・交流、共同訓練等で活かし、共同対処能力及び相互運用性の更なる向上の一助にしていきたいと思えます。



C-2 landed at the "NWF"



Bilateral fuel transfer training



Cargo drop training over Angaur



Patient transport training with an Aeromedical Evacuation Unit



Photos by Koku-Jieitai



## 第5空軍司令官表敬・非接触型体温計贈呈 JAAGA president pays a courtesy call on commander of Fifth Air Force and presents non-contact thermometers



President Saitoh gives the commander a “shot” and list

4月16日（金）、齊藤会長（武藤企画理事、川口渉外理事、太田広報理事同行）が、15時30分から横田基地に在日米軍司令官兼ねて第5空軍司令官ケビン・B・シュナイダー中将（Lt Gen Kevin B. Schneider, Commander of U.S. Forces Japan and 5th Air Force）を訪問し、「非接触型体温計」を贈呈した。

これは、コロナ禍により様々な制約を受けている在日米軍にあって、主正面で活躍する米空軍人等の健康状態を掌握する上で有用な「非接触型体温計」を贈呈しては如何か？との武藤理事による発議を基に、役員会による審議・決定を経て、実現したものである。

司令官室での肘タッチによる挨拶に続き、齊藤会長により、今回贈呈した「非接触型体温計」を用いたシュナイダー司令官に対する「デモ検温」が実施され、無事発熱等なしの結果が確認された後、同体温計の目録が手交された。

この体温計は、数ある体温計の中から、武藤理事が厳選したもので、正確な検温性能を有する「日本企業製」で、「華氏表示」かつ「英語マニュアル」付きのものである（一般的なものより「お高い」ため、数量は控えめの1ダースとなった・・・）。

シュナイダー司令官からは「JAAGAの皆様には、日頃からお世話になっておりますが、この度は時宜に合った非接触型の体温計を頂き、心より感謝します」との謝辞を頂いた。

その後、シュナイダー司令官、陪席された第5空軍副司令官レオナルド J. コシンスキー准将（Brig Gen Leonard J. Kosinski, Deputy Commander of 5th Air Force）とともに、和やかな雰囲気の中、懇談に移り、齊藤会長から2021年度のJAAGAの訪米計画の概要—これまで実施されてきた部隊等の訪問は計画せず、在ハワイの太平洋空軍司令部等、ワシントンD.C.でのAFA（米空軍協会）総会参加を軸に計画—が伝えられた。

コロナ禍の終息が見通せない中、様々な行事等が中止される状況ではあるが、横田基地はじめ在日米軍基地等

行事への参加や在日米空軍人等との交流を可能な範囲で実施していきたいとの双方の意向が確認された。

また、在日米軍におけるコロナ感染防止対策としては、米本国入国、日本入国の際には、ワクチン既接種者に対する期間短縮はあるものの、原則14日間の隔離、状況確認が必要であるとのことであり、予防接種については、主に医療関係者、主正面で活動する軍人等に対して優先して行われており、順次進捗しているとのことであった。

続いて、インド太平洋地域の情勢についての話題となり、中国の一方的な枠組み変更に対応するためには、クワッドや東南アジア諸国との連携を強化すること、インド太平洋方面への英国・仏国・独国の艦艇群等の派遣と協調した行動を採ること等により、中国の振る舞いをしめるべき方向へ導いていく必要があるとの認識が共有された。シュナイダー司令官からは、長きに亘り日本はアジア諸国との良好な関係を構築してきており、米軍としては日本の力が不可欠であると話され、齊藤会長からは、米軍はインド太平洋地域の安定に無くてはならない存在であり、日米の相互補完により、より実効性を高めていくことが重要であり、そのためにJAAGAも努力していくと応じられた。

短い時間ではあったが、お互いの情勢認識やコロナ対応の状況等が確認でき、非常に有意義な懇談機会となった。



President Saitoh, Director Muto, Kawaguchi and Ota call on Lt Gen Uchikura, Commander of Air Defense Command & Maj Gen Araki, Chief of Staff

次いで、内倉航空総隊司令官を訪問し、記念撮影の後、齊藤会長から、厳しいコロナ禍においても任務を万全に遂行している航空総隊に対し敬意を表され、以降は陪席された荒木幕僚長と共に和やかに懇談が進み、最近の情勢や航空総隊の対応な

どについての意見交換等がなされた。こちらも限られた時間ではあったが、たいへん有意義な懇談機会となった。

ITの進歩により、リモート会議ソフト等でネットを通じた意思疎通が可能となり、その利便性を感ずる機会が増えてきてはいるものの、反面、「リアル」なフェイス・トゥ・フェイスで話をする機会の貴重さ・重要性を実感した機会でもあった。

（太田理事記）

## 令和2年度 日米優秀隊員表彰

### JAAGA AWARD for Koku-Jieitai & USAF Brilliant Soldier in FY 2020

令和2年度のJAAGA日米優秀隊員表彰式は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、例年のようにJAAGA会長が執行者として現地に赴き表彰式を行うことがかなわず、各被表彰者の所属基地等における上司からの表彰伝達という形で行われた。

本表彰行事は平成10年度から開始されて以来今回が23回目となり、被表彰者数は総計165名（空自96名、米空軍69名）を数えた。（深瀬理事記）

～日米優秀隊員の一覧表をP13に掲載～

#### — 三沢地区表彰式 —

##### Misawa area

今年度の三沢地区JAAGA表彰行事は、日米それぞれの基地司令（官）に依頼し表彰伝達式の形で被表彰者へ表彰状と盾の授与が行われた。

#### 空自三沢基地（Misawa AB, JASDF）

2月2日（火）、三沢基地応接室で、表彰伝達式の執行者である三沢基地司令久保田隆裕空将補、被表彰者である北部航空警戒管制団北部防空管制群防空管制隊小林克次2等空曹の他、小林2曹の上司である防空管制隊長、防空管制隊准曹士先任、第3航空団准曹士先任が参加し、実施された。

今年度の被表彰者である小林2曹は、三沢基地2・3曹会副会長として、「スペシャルオリムピックス」や「日米合同基地マラソン」における米空軍関係者との緊密な連携、また米空軍主催の「ホーンテッドハウス」や三沢市主催の「三沢アメリカンデー」における積極的な支援等、航空自衛隊と米空軍の友好親善と相互理解の増進に貢献した功績が認められた。

式では、久保田基地司令から小林2曹に表彰状と盾が手渡され、久保田基地司令の祝辞では、日米両被表彰者に対するお祝いの言葉とともに、「三沢基地は、引き続

き日米運用部隊が同じ地に所在するという恵まれた環境を活かし、今回表彰されたお二人を模範とし、より一層強固な友情を



Award from Maj Gen Kubota, Commander of Misawa AB to TSgt Kobayashi

築いてまいりたい」との決意が、また、「日米間での友情をより強固にするために本表彰を頂いた齊藤会長をはじめとするJAAGAの皆様には厚く御礼申し上げます」との感謝が述べられた。その後、記念撮影へと進み、式は滞りなく実施された。

小林2曹から「このような栄えある賞を頂けたことに心から感謝します。引き続き隊員の相互理解並びに米空軍との交流に携わり、皆様が楽しく笑顔になれますように活動していきます」とのコメントを頂いた。

#### 米空軍三沢基地（Misawa AB, USAF）

4月9日（金）、第35運用支援隊会議室で、表彰伝達式の執行者である米軍三沢基地司令官ジェシー・J・フリーデル大佐（Col Jesse J. Friedel）、被表彰者である第35戦闘航空団第13戦闘飛行隊スペンサー“ボカ”ロートン大尉（Capt Spencer “Boca” Rhoton）の他、ロートン大尉の上司である第35作戦群司令、ロートン大尉の同僚など約20名が参加し、実施された。

今年度の被表彰者であるロートン大尉は、第13戦闘飛行隊操縦者として、日米共同訓練において米空軍及び航空自衛隊の関係者と緊密に調整し安全の確保と円滑な訓練の実施に貢献したほか「三沢エアフェスタ」や「横田エアショー」における航空機展示支援等を通じて日米の交流促進に寄与する等、航空自衛隊と米空軍との友好親善及び相互理解の増進に尽力した功績が認められた。

式では、フリーデル基地司令官からロートン大尉に表彰状と盾が



Award from Col Friedel, Commander of Misawa AB, USAF to Capt Rhoton

手渡され、基地司令官から「ロートン大尉は、米空軍と航空自衛隊が良く共同関係を保つための模範となり、航空自衛隊との友好関係が確かなものとなるよう前向きにやり甲斐をもって事業を推し進めてくれた。JAAGA アワードの被表彰者としてふさわしい」とのお祝いの言葉があり、その後記念撮影へと進み、式は無事に終了した。

ロートン大尉から「JAAGA と齊藤会長に感謝します。日本はすばらしくまた重要な国であり、私たちがより良い関係を維持できるのは、JAAGA のような組織そしてそのメンバーである皆様の努力のおかげです。ありがとうございました」とのコメントを頂いた。

(大浦理事記)

### — 関東地区表彰式 —

#### Kanto area

関東地区 JAAGA 表彰行事は、それぞれの基地において以下のとおり実施された。

今年度の航空自衛隊側被表彰者は、航空気象群横田気象隊須藤雄二空曹長（横田基地）、宇宙作戦隊山口尚也 2 等空曹（府中基地）及び第 2 輸送航空隊整備補給群修理隊杉田賢謙 2 等空曹（入間基地）の 3 名であった。

また、米空軍側被表彰者は、第 374 空輸航空団安全部ジョセフ・リリー曹長（MSgt Joseph Lilly）であった。

#### 空自横田基地（Yokota AB, JASDF）

2月19日（金）、作戦システム運用隊本部応接室において、横田基地司令（作戦システム運用隊司令）荒木俊一 1 等空佐を執行者とし、航空気象群横田気象隊長高橋靖 2 等空佐以下 4 名の同席の下で実施された。

須藤曹長は、基地准曹会長として、チーフス・グループ及び横田 TOP3 での活動並びに横田フロストバイトでの自衛隊側の企画・運営を担当し、円滑な大会運営の支援を推進するとともに、気象隊准曹士先任として、各種スポーツイベントの企画・実行を通じた日米気象部隊の交流や横田基地のポーリング・イベントへの参加など

各種ボランティア活動を通じた日米交流を推進したことが認められての表彰であった。



Award from Col Araki,  
Commander of Yokota AB to  
CMSgt Sudo

#### 空自府中基地（Fuchu AB, JASDF）

2月9日（火）、航空気象群本部応接室において、府中基地司令（航空気象群司令）阿蘇晋一 1 等空佐を執行者とし、宇宙作戦隊長阿式俊英 2 等空佐の同席の下で実施された。

山口 2 曹は、在日米軍最先任上級曹長の空自部隊訪問において、在日米空軍との事前調整を綿密に行い、感染症対策等、

諸状況に配慮した適切な対応を実施したことや、令和 2 年度日米共同統合演習において、初参加となる空自宇宙



Award from Col Aso,  
Commander of Fuchu AB to  
TSgt Yamaguchi

作戦隊の統裁要員として活動するとともに、令和 2 年 1 月に横田基地で実施されたスペース・シンポジウムに参加したことにより、宇宙領域における日米軍種間の連携強化に貢献したことなどが認められての表彰であった。

#### 空自入間基地（Iruma AB, JASDF）

2月5日（金）、第 2 輸送航空隊本部会議室（表彰式）及び応接室（懇談）において、第 2 輸送航空隊司令富崎秀樹 1 等空佐を執行者とし、第 2 輸送航空隊副司令生田孝治 1 等空佐以下 6 名の同席の下で実施された。

杉田 2 曹は、2017 年の米空軍下士官資質向上セミナーに参加し、米軍横田基地の隊員との積極的な交流を図るとともに、第 2 輸送航空隊の横田基地研修において、第 374 空輸航空団と綿密な調整を行い、米航空輸送部隊の航空機整備分野における整備や器材に関する情報交換を行う等、日米両空軍種間の交流事業に貢献したこと、更

には、横田基地開催のスペシャルオリンピックス、フロストバイト・ロードレースなどの日米交流行事に積極的に参加したこ



Award from Col Tomizaki,  
Commander of the 2nd TAG  
to TSgt Sugita

となどが認められての表彰であった。

### 米空軍横田基地 (Yokota AB, USAF)

2月23日(火)、米軍横田基地第374空輸航空団会議室において、第374空輸航空団司令官キャンベル大佐(Col Andrew J. Campbell)を執行者とし、基地所属の米空軍隊員40名の同席の下で実施された。



Award from Col Campbell, Commander of the 374th AW to MSgt Lilly

リリー曹長は、日米の各種訓練演習及び交流事業において遺憾なくその能力を発揮し、日米の相互運用性の向上に貢献、特に航空自衛隊との技術交流において弾薬や整備管理に関して適切な指導・助言等を行うとともに、爆発物や麻薬の発見訓練などを通じて日米の警備犬チームの能力向上・連携強化を図り日米共同警備の態勢整備に助力したこと、加えて、陸上自衛隊との基地警備演習における弾薬の安全な取り扱いについて適切な調整をしたことなどが認められての表彰であった。

例年と異なる表彰伝達式となったが、JAAGA会長の気持ちをお伝えしていただくとともに、それぞれの部隊の実情に合わせた工夫を凝らした心の籠った伝達式が行われた。これも横田基地作戦システム運用隊監理部の取りまとめ、並びに各基地担当者のご尽力のおかげであり、皆様に心より感謝申し上げます。

(新谷理事記)

### — 沖縄地区表彰式 — Okinawa area

沖縄地区 JAAGA 表彰行事が2月19日(金)に米軍嘉手納基地で、2月25日(木)に航空自衛隊那覇基地でそれぞれ実施された。

### 空自那覇基地 (Naha AB, JASDF)

那覇基地における表彰伝達式は、基地応接室において、第9航空団司令高石景太郎空将補を執行者とし、南西航空施設隊司令永易慎太郎2等空佐、南西航空施設隊准曹

士先任高間宗二准空尉同席の下、執り行われた。

被表彰者は南西航空施設隊田代幸太郎3等空曹で、嘉手納基地で開催されたスペシャルオリピックス等

のボランティア活動に率先して参加するなど、日米の友好親善および相互理解の増進に寄与した功績が認められての表彰であった。



Award from Maj Gen Takaishi, Commander of the 9th AW to SSgt Tashiro

### 米空軍嘉手納基地 (Kadena AB, USAF)

嘉手納基地における表彰伝達式は、嘉手納基地内において、第18航空団司令官ジョエル・キャリー准将(Brig Gen Joel L. Carey)を執行者とし、第18航空医療搬送中隊司令ベス・サムナー大佐(Col Beth Sumner)、第18航空団最先任上級曹長ジェシカ・ベンダー最上級曹長(CMSgt Jessica Bender)、第18航空医療搬送中隊前任上級曹長トレメイン・ニールズ最上級曹長(CMSgt Tremayne Neals)、ジェイミー・カミングス被表彰者夫人(Mrs. Jamie Cummings)同席の下、執り行われた。

被表彰者は第18航空医療搬送中隊のケン C. カミングズ3等軍曹(SSgt Ken C. Cummings, 18th Aeromedical Evacuation SQ.)で、航空自衛隊の有事医療体制の新たな基準の策定に協力するなどの功績が認められての表彰であった。

今年度は、新型コロナ感染予防の観点から各部隊長からの表彰伝達となった。例年とは異なる形式で実施された本行事にあたり、ご尽力いただいた那覇基地、嘉手納基地のスタッフの皆様から感謝申し上げます。



Commemorative photo of SSgt Cummings and his family with Brig Gen Carey, Commander, 18W

(渡邊理事記)

— 受賞者及び功績の概要 —  
**JAAGA AWARD 2020 Recipients and their Achievements**

部隊	受賞者	功績の概要
北部航空警戒管制団 (三沢) Misawa		三沢基地2・3曹会副会長として、日米交流の事業に積極的に携わり、特に「スペシャルオリンピックス」及び「日米合同基地マラソン」において米空軍関係者と緊密に協力して競技支援にあたり、その円滑な実施に貢献したほか、米空軍主催のイベント「ホーンテッドハウス」や三沢市主催の「三沢アメリカンデー」において案内業務を担当する等、三沢基地における航空自衛隊と米空軍との友好親善及び相互理解の増進に献身的に尽力
	2等空曹 小林 克次 TSgt Katsuji Kobayashi	He has been positively engaged in Japan-US exchange activities as Vice President of Misawa AB T&S Sgt Association. He has particularly contributed to the success of the Special Olympics and the “Race the Base” marathon event in close cooperation with USAF staffs. He has also played an active role as a guide for the haunted house run by USAF and Misawa American Day hosted by Misawa city. All his dedication contributed to the significant advancement of friendship and mutual understanding between JASDF and USAF
航空気象群 横田気象隊 (横田) Yokota		横田基地准曹会長として、チーフス・グループ及び横田TOP3で活動するとともに、横田フロストバイトでの自衛隊側の企画・運営を担当し、円滑な大会運営を支援。また、横田気象隊准曹士先任として、各種スポーツイベントの企画・実行を通じて日米気象部隊の交流を推進するとともに、横田基地のボーリングイベントへの参加、基地ジュニアリーグでの技術指導などの各種ボランティア活動を通じて日米交流を推進
	空曹長 須藤 雄二 CMSgt Yuji Sudo	As President of JASDF Yokota AB SNCO Association, he positively supported the activities on the Chiefs Group and Yokota TOP3. Also, he supported the smooth operation of Yokota Frostbite, by being in charge of the planning and operation of JASDF side. Furthermore, as a Senior Enlisted Adviser, Yokota Air Weather SQ., he promoted exchange activities between JASDF and USAF Weather units through the planning and execution of various sporting events. He also promoted Japan-US exchange program through various volunteer activities such as bowling events at Yokota AB and technical coach at the base junior league
宇宙作戦隊 (府中) Fuchu		在日米軍最先任上級曹長の空自部隊訪問において、在日米空軍との事前調整を綿密に行い、感染症対策等の諸状況に配慮した適切な対応を実施。また、令和2年度日米共同統合演習において、初参加の空自宇宙作戦隊の統裁要員として活動するとともに、令和2年1月に横田基地で実施されたスペース・シンポジウムに参加する等、宇宙領域における日米軍種間の連携強化に貢献
	2等空曹 山口 尚也 TSgt Naoya Yamaguchi	When CMSgt of USFJ visited the Space Operations SQ., he attempted careful adjustment with USFJ, and, in the general briefing, he promoted appropriate measures in consideration of various situations such as infectious disease countermeasures. Furthermore, he acted as a controller of Space Operations SQ., which participated for the first time in the Japan-US Joint Exercise 2020. He also participated in the space symposium held at Yokota AB in Jan. 2020, and, in the space domain, he contributed to strengthening cooperation between JASDF and USAF
第2輸送航空隊 (入間) Iruma		2017年の米空軍下士官資質向上セミナーに参加し、米軍横田基地の隊員との積極的な交流を図るとともに、第2輸送航空隊の横田基地研修において、第374空輸航空団と綿密な調整を行い、米航空輸送部隊と航空機整備分野における整備や器材に関する情報交換を行う等、日米両空軍種間の交流事業に貢献
	2等空曹 杉田 賢謙 TSgt Yoshinori Sugita	He participated in the 2017 USAF NCO Qualification Seminar to actively interact with members of USAF, Yokota AB. He also made close coordination with the 374th Airlift Wing during the Yokota AB study tour of 2nd Tactical Airlift Group, and exchanged information on maintenance and equipment in the aircraft maintenance field of JASDF and USAF air transport units. Through these activities, he contributed to the exchange program between JASDF and USAF
南西航空施設隊 (那覇) Naha		航空自衛隊と米空軍との共同訓練に際し日米相互運用性に大きく貢献するとともに、嘉手納基地で開催されたスペシャルオリンピックス等のボランティア活動に率先参加するなど、航空自衛隊と米空軍との友好親善および相互理解の増進に献身的に尽力
	3等空曹 田代 幸太郎 SSgt Kotaro Tashiro	He contributed to upgrading the interoperability for both air forces in the bilateral exercises. Also, he made a great success in strengthening friendship and deepening mutual understanding between JASDF and USAF, by participating in volunteer activities including Special Olympics at Kadena AB
第35戦闘航空団 (三沢) Misawa		第13戦闘飛行隊操縦者として、日米共同訓練において米空軍と航空自衛隊の飛行部隊が円滑に連携できるよう日米の関係者と緊密に調整し、安全の確保と円滑な訓練の実施に貢献したほか、三沢エアフェスタや横田エアショーにおける航空機展示支援及び外務省のオリエンテーション教育研修を通じて日米の交流促進に寄与する等、航空自衛隊と米空軍との友好親善及び相互理解の増進に献身的に尽力
	Capt Spencer “Boca” Rhoton 空軍大尉 スペンサー “BOCA” ロートン	As a pilot of 13th Fighter SQ., he has worked in close coordination with JASDF flight units, ensuring the flight safety and flawless execution of the Japan-US joint exercise. He has also promoted mutual friendship between Japan and U.S. through his support of the aircraft display of Misawa Air Fest and Yokota Air Show, as well as his participation in the orientation program conducted by the Ministry of Foreign Affairs of Japan
第374空輸航空団 (横田) Yokota		航空自衛隊との技術交流において弾薬や整備管理に関して適切な指導・助言等を行うとともに、爆発物や麻薬を発見する訓練などを通じて日米の警備犬チームの能力向上・連携強化を図り、日米共同警備の態勢整備に助力したほか、陸上自衛隊との基地警備演習においても、弾薬の安全な取り扱いなどについて適切に調整
	MSgt Joseph Lilly 空軍曹長 ジョセフ・リリー	He has provided appropriate guidance and advice in a series of technical exchanges between JASDF and USAF, centered on fundamentals of munitions and maintenance supervision. He also fostered increased readiness of bilateral security abilities between Japan and the US by improving the capabilities and strengthening of cooperation of security dog teams through training to detect explosives and narcotics. He coordinated appropriately with JGSDF into base defense exercises to ensure the safe utilization of blank ammunition
第18航空医療搬送中隊 (嘉手納) Kadena		日米の様々な交流行事等において遺憾なくその技能を發揮し、特に航空自衛隊の有事医療体制の新たな基準の策定に協力するなど、航空自衛隊と米空軍との友好親善および相互理解の増進に献身的に尽力
	SSgt Ken C. Cummings 3等軍曹 ケン C. カミングズ	He has upgraded the interoperability for both air forces in the bilateral exercises. Also, he made a great success in strengthening friendship and deepening mutual understanding between JASDF and USAF, by cooperating in the creation of new medical standards for the JASDF combat care system

## スペシャルオリンピックス支援 JAAGA supports Special Olympics in Yokota AB

### 2021関東地区スペシャルオリンピックス朝食会 A kickoff meeting on Kanto Plains Special Olympics 2021 with breakfast



MSgt Richard Craft, Executive chairman of Kanto Plains Special Olympics 2021, with JAAGA Director Bando, Fujita, and Murata



関東地区スペシャルオリンピックス組織委員会主催のこの行事は、スペシャルオリンピックスの理解をより深めるとともに、基地内外の各種協力団体等との交流を図ることを目的に、毎年横田基地内で開催されている。本年は2月13日（土）基地NCOクラブにて行われ、JAAGAからは阪東・藤田・村田理事が参加した。

今年は、コロナ禍の中ではあったが、基地内は感染予防対策に取り組みつつ、様々な制限がかかる中で、大会のキックオフ・ミーティングを兼ねた朝食会が開催された。

朝食会はいつもとは違う静かな雰囲気始まり、オリエンテーション中のスライドショーでは、朝食会に参加できなかった特定非営利活動法人「しらゆり」からビデオレターでメッセージが紹介された。そこには作業所での生徒さんたちの日常生活が紹介され、先生からは「スペシャルオリンピックスは、生徒にとっては一日中楽しめる夢の国ディズニーランドのような場所なのです」と、大会が開催されることをとても楽しみにしている様子がうかがえた。

昨年はコロナ感染症拡大のため残念ながら中止となったが、今年は規模を縮小して開催される予定である。

朝食会の最後に、実行委員長のリチャード・クラフト空軍曹長より「5月22日に会いましょう」と力強い挨拶があった。JAAGAとしては、これからも組織委員会をしっかりサポートしていきたいと思う。

（村田理事記）



The breakfast meeting takes several countermeasures for preventing COVID-19

#### 【スペシャルオリンピックス】

古代ローマで剣闘士が闘技場に入るときに口にしたという「Let me win. But if I cannot win, let me be brave in the attempt. (私達は、精一杯力を出して勝利を目指します。たとえ勝てなくても、頑張る勇気を与えてください)」という言葉を用いたアスリートの宣誓とともに開始されるスペシャルオリンピックスは、1962年6月にJohn. F. Kennedy 元米国大統領の妹 Eunice Kennedy Shriver さんが自宅の庭を開放して35名の知的発達障害のある人たちを招いてディキャンプを行ったのが始まりとされ、約500万人の知的発達障害のある人と100万人のボランティアが、170を超える国と地域で参加している活動である。

JAAGAは毎年、米空軍の横田及び三沢基地で開催されている活動に、ささやかではあるが支援を行っている。

## 2021関東地区スペシャルオリンピックス Kanto Plains Special Olympics 2021



Director Iwamoto hands donation to Col Campbell, Commander of the 374th AW, praying for the success of the 42nd annual Kanto Plains Special Olympics



The national flags of Japan and the U.S. are marching into the field



An opening speech by Col Campbell



Oath of the Athlete



A fun frisby game



An athlete with sparkling eyes

5月22日(土)、米空軍横田基地にて第42回関東プレーンズ・スペシャルオリンピックスが開催された。昨年はコロナ禍で中止となったが、本大会は緊急事態宣言下において実施可否が繰り返し検討され、実行委員会及び参加学園の先生方をはじめ関係者の熱い希望と努力により、感染症対策を第一に安全と安心の中で、規模を縮小した大会として開催された。本大会には地元自治体及び協力団体の首長等とともに空自横田基地司令伊豆原1佐が招待され、JAAGAからは岩本、藤田、村田理事及び阪東会員が参加した。



開会式の挨拶において第374空輸航空団司令官キャンベル大佐は「コロナ禍の情勢の中、安全を考慮しながら準備してきたこの大会は、忘れがたい大会となるでしょう。応援してくださる皆様と一緒にスペシャルオリンピックスの精神を育み、選手の皆さんの前向きな姿勢と努力をたたえましょう」と挨拶された。続いて聖火トーチが参加学園にバトンタッチされ、各競技がスタートした。

今年のボランティアは航空自衛隊横田基地の隊員が担当しており、赤いTシャツ姿の隊員たちが、様々な制約の中でも選手たちと明るく接し、大会を支えていた。

横田基地で40年以上続く歴史ある大会の支援は日米友好の証として大きな役割を担っている。航空自衛隊OB有志として更なる相互信頼の深化を図ることを心に誓い、会場を後にした。

(藤田理事記)



Red shirted Koku-Jieitai volunteers (members of Warrant Officer and Sergeant Association in Yokota AB) are supporting the game with a new mitigation plan to protect athletes and combat the spread of COVID-19

## トーマス・ノブオ・ハセベ氏 令和2年秋の叙勲、旭日小授章 勲章・勲記伝達式

Mr. Thomas Nobuo Hasebe was conferred the 2020 Fall Imperial Decoration,  
The Order of the Rising Sun, Gold Rays with Rosette

3月4日(木)、在ホノルル日本国総領事館において、米空軍の軍人、また、米空軍省の職員として、約30年の長きにわたり、航空自衛隊と米空軍との協力事業に尽力された功績により、令和2年秋の叙勲「旭日小授章」を受けたトーマス・ノブオ・ハセベ氏への勲章・勲記伝達式が行われ、青木総領事から勲記と勲章が手渡されました。

ハセベ氏は、平成2年2月、米空軍交換幹部教官として航空自衛隊幹部学校に着任し、堪能な日本語を駆使し豊富な経験と卓越した識見をもって、教育訓練の実施に多大な貢献をされ、平成6年からは、横田基地に所在する在日米軍第5空軍副司令官特別補佐官として、航空自衛隊と協力しながら日米の計画策定に尽力されました。

平成8年に米空軍を退官後は、米空軍省職員として引き続き第5空軍副司令官補佐官を務め、航空自衛隊との様々なハイレベル協議の通訳を実施し、日米の空軍種間の円滑な意思疎通を可能にするとともに、日米交換幹部プログラムの責任者として日米の空軍種の信頼関係の増進に大きく貢献されました。また、語学に係る深い識見を生かし、日本各地で行われた航空自衛隊の英語弁論大会(注:現在は英語競技会)に審査委員として参加し、航空自衛隊員の英語能力向上に大きく貢献されました。

また、平成19年からハワイ州のパールハーバー・ヒッカム統合基地で、米太平洋空軍アジア太平洋交換幹部事業・海外開発教育地域担当部長、平成22年から米空軍省国際部インド太平洋交換幹部事業・海外開発教育運用部長として、日米の空軍種間の交換幹部プログラムの円滑な実施に尽力し、航空自衛隊と米空軍のより一層の相互理解と協力関係強化に大きく寄与されました。

ハセベ氏の長年にわたる取り組みは、日米の空軍種間の信頼関係を大きく増進させ、日米の相互運用性に大きく寄与し、もって我が国の安全保障に大きく貢献した功績が認められたものです。



(front left) Mr. Aoki, Consulate General of Japan in Honolulu and wife (front right) Mr. Hasebe and wife (back from left) Mr. Nagata, Consulate of Japan from Japan Ministry of Defence, Col Kurachi, Liaison Officer, PACAF, Capt Kono, 747CS Exchange Officer, Mr Hasebe, elder brother

伝達式では、青木総領事から祝辞の言葉が述べられ、続いて勲章・勲記の授与式、そしてハセベ氏からのスピーチ、最後に、航空自衛隊からの祝辞を米太平洋空軍司令部連絡官の倉地1等空佐が代読しました。

トーマス・ノブオ・ハセベ氏からは、これまで米空軍省国際部インド太平洋交換幹部事業・海外開発教育運用部長として、航空自衛隊と米空軍との間での防衛交換要員プログラムに携わった経験をお話しされたとともに、航空自衛隊と米空軍に向けた感謝の言葉、そして自らが米空軍を目指すきっかけを与えてくれた長兄や、寄り添ってくれているご夫人をはじめご家族への感謝の言葉が述べられました。

勲章・勲記伝達式は、新型コロナウイルスによる制限を踏まえ、少人数で実施されましたが、大変心温まる式典となりました。

(福永理事記)

引用: 在ホノルル日本国総領事館プレスリリース  
写真: ハセベ氏ご提供  
資料提供等: 空幕教室

## T-38事故、殉職された日米操縦士に弔意 Condolences on two pilots died in T-38's crash

2月20日(土)8時頃(日本時間)、米国アラバマ州モンゴメリー空港から約3kmの地点において、米空軍で飛行訓練中であつた故植崎廉徳1等空尉と米空軍教官操縦士が搭乗するコロンバス基地所属の航空機(T-38)が、モンゴメリー空港に着陸進入中に墜落し、当該搭乗員2名の死亡が確認されました(空幕報道発表等による)。

日米空軍種の隊員2名が志半ばにして職に殉じられた

ことを悼み、JAAGAとして速やかに5空軍司令部儀典室及び菅井米国防衛駐在官と調整し、齊藤会長から米空軍参謀総長及び5空軍司令官に書簡を発送し、弔意をお伝えしました。

ここに改めて御両名への敬意を表しますとともに、ご冥福をお祈りいたします。

(岩本理事記)



## テキサスの母『ユキエさん』を偲ぶ (ラックランド空軍基地ホストファミリー) In memory of "Texas mother, Yukie-san"

米国ラックランド空軍基地のホストファミリーとして長年にわたり空自隊員をお世話してくださったユキエさん (Yukie Rogers) が今年1月31日、ネブラスカ州フリーモントで安らかに亡くなりました。89歳でした。

ユキエさんは富士吉田市のお生まれで、米空軍のポビー・ロジャースさん (2012年没) とご結婚されて二人のお子様を育てられ、1980年から2015年の35年間にテキサス州ラックランド空軍基地のホストファミリーとして、7,000人以上におよぶ隊員とその家族の面倒を見てこられました。とても個性的で面倒見がよく、ラックランド空軍基地の英語委託教育課程等で学んだ多くの現役隊員やOBから、大変お世話になったという声を聴きました。

亡くなる前の14か月は、ご子息デービッドさん夫妻の暮らすネブラスカ州フリーモントで、ユキエさんのための和室をしつらえたお宅で同居されていたとのこと、安らかな最期であったとのことでした。

航空幕僚長から、ユキエさんの生前のご厚情に感謝し、哀悼の意を表して書簡が送られました。書簡からユキエさんのご功績について引用し、ご紹介します。

「・・・ユキエ様は長きに渡り、ホストファミリーとしてラックランド基地に留学する多数の自衛官及びそのご家族を支援されました。日本食を始めとしたユキエ様の心のこもったおもてなしは米国で生活する自衛官の活力となり、彼らにとってユキエ様はまさに『テキサスの

母』と呼べる存在でした。

ユキエ様にお世話になった自衛官が、日米共同の基幹要員となり、航空自衛隊と米空軍との関係を強化する礎となっています。・・・」

(以上、空幕長書簡引用)

JAAGAとして、日米空軍種間の協力と相互理解の推

進の礎となっている航空自衛官へのご厚情に深く感謝するとともに、心からご冥福をお祈りします。

(福永理事記)

引用：<https://memorials.moseremorialchapels.com/yukie-rogers/>  
つばさ会だより157号  
資料提供等：空幕総務課



Yukie Rogers  
Sep. 4, 1931 - Jan. 31, 2021

## ブラウン大將に JAAGA 名誉会員委嘱盾を贈呈 Gen Brown was presented the Plaque of JAAGA Honorary Member



Gen Charles Q.  
Brown, Jr.

米空軍参謀総長ブラウン大將は、昨年7月8日付のチェンジ・オブ・コマンド式典をもって太平洋空軍司令官の任務を終え、同日付でJAAGA名誉会員として入会された。

名誉会員への委嘱盾の贈呈要領について、太平洋空軍司令官副官や同司令部渉外室等と調整を重ねたが、コロナ感

染症拡大の影響を受け、当時は米国宛の郵便業務が停止し米軍空輸業務フローも大幅に遅れていたため、ブラウン大將の離任までにハワイで手渡すことは時間的に困難であることが判明した。

このため現米国防衛駐在官菅井空将補 (昨年8月渡米着任) に委嘱盾を託け、ワシントンD.C.で手渡してい

ただくよう依頼した。

菅井防衛駐在官は、赴任時に自ら盾を携行し着任後もブラウン空軍参謀総長に直接手渡すべく腐心されたが、コロナ感染症拡大による国防総省への立ち入り制限等のため直接の手交の見通しが立たない状況が続いた。

最終的に、菅井防衛駐在官と空軍参謀総長室との調整により、空軍参謀総長室宛に盾を送付し、同室スタッフからブラウン大將に届けてもらうこととなり、2月24日(水)、無事、ブラウン大將が名誉会員委嘱盾を受け取られたことが確認できた。これを以て、一連の名誉会員委嘱の手続きが完了した。

(岩本理事記)

(関連記事を、だより58号、59号に収録)



寄稿

## 米空軍将校 航空自衛隊勤務だより

### Letter from USAF Officer Working in Koku-Jieitai

#### 【 操縦部門 】

航空教育集团 飛行教育航空隊・第23飛行隊  
(Fighter Training Group, Air Training Command)  
Lt Col Nathaniel J. BELL

皆さん、はじめまして。私は新田原基地の飛行教育航空隊・第23飛行隊で、F-15戦闘機の教官操縦士として勤務しているナサニエル・ベル中佐です。2019年の冬から家族4人で一緒に宮崎県に住んでいます。

現在までの経歴を紹介したいと思います。私は2005年にウィスコンシン大学マディソン校で心理学と哲学を勉強しながら予備役将校訓練課程(ROTC)で米空軍に入隊しました。卒業後、パイロットになるため、2006年にテキサス州のシェパード空軍基地でEuro-NATO統合ジェットパイロット訓練課程に参加しました。ウィングマーク取得後、基本訓練機の教官課程を経て、一年半の間、T-37操縦教官として勤務しました。後にT-6に異動して教官資格を取得し、欧米州(NATO諸国)のパイロットに基本操縦を教えました。

3年間の教官勤務が終わり、F-15E部隊へ異動することになりました。2010年にノースカロライナ州のシーモア・ジョンソン空軍基地のF-15E基本訓練課程に入校しました。卒業後、アイダホ州にあるマウンテンホーム基地へ異動し、第391飛行隊に配属となりました。

2012年に中東に派遣され、地域安全保障の任務に就きました。それに加えて、「不朽の自由作戦(Operation Enduring Freedom)」に参加する機会がありました。2014年にシーモア・ジョンソン空軍基地に戻って第335飛行隊に配属となり、もう一度中東に行き、「生来の決意作戦(Operation Inherent Resolve)」でイスラム過激派組織「ISIL: The Islamic State of Iraq and the Levant」に対応しました。

昔から日本に興味がありましたが、行く機会がありませんでした。しかし、任地希望調査の際、新田原基地での勤務を希望するチャンスを得ることができました。日本行きが承認された後、国防省外国語学校(DLI)の日本語部で



Lt Col Nathaniel J. BELL  
(when he was Major)

1年半にわたり日本語を猛勉強し、背水の陣で試験に挑み、合格できました!

その後、2019年2月に来日しましたが、すぐに家族全員がノロウイルスに感染するという洗礼を受けたものの、ただちに回復し、第23飛行隊においてF-15J/DJの機種転換操縦訓練が始まりました。航空自衛隊の操縦法と航空法の違いに慣れるために、体験飛行を実施しました。経験の長い教官に教えていただいたおかげでF-15Jの教官資格を取得できました。現在、私は彼らと共に航空自衛隊のF-15戦闘機操縦士の育成に取り組んでいます。

第23飛行隊において私はF-15及びシミュレータで若い戦闘機操縦学生に基本手順から空対空戦闘まで教えています。学生の英語力によって英語又は日本語を使用し、正しく効果的な操縦法を教えています。今まで学生2人を担当し教える機会がありました。その学生の最初の単独飛行まで、責任を持って操縦法に関する基本手順



Teaching during out and back



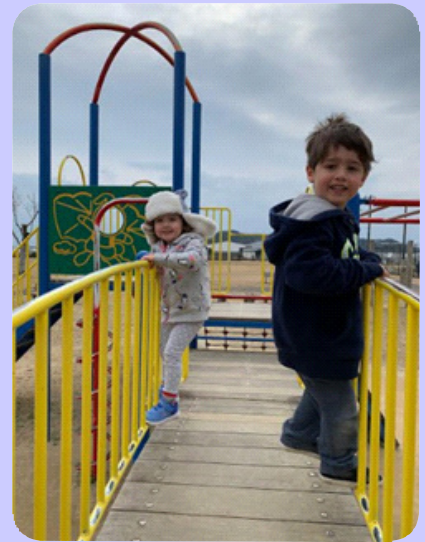
TOEIC Practice with students during "Eigo Ijime"



Outside Matsuyama Castle with family ; Wife Aricel, Son Benny, Daughter Emmy



Family picture in front of an erupting Sakurajima in Kagoshima Prefecture



Benny and Emmy playing at Sumiyoshi Park

と知識を教え導きました。一生懸命に頑張り、日本の空を護る熱意ある学生を教育できる自分を誇りに思い、日々の訓練に邁進しております。

ファイターパイロットは、高い英語能力が要求されることから、私は「英語いじめ」という授業も取り組んでいます。本当にいじめるのではなく、学生に優しく英語の文法とリスニングを教えて日常会話も練習します。その授業でさまざまな異文化交流を行っています。私は学生に好きなアメリカの映画、音楽、漫画を勧めます。学生が私に自分の好きな映画、音楽、漫画を勧めてくれたら、私はすぐ買ってみます。その交流で学生に英語への自信を与えると同時に、私も日本文化を教えてもらい、いつも感謝しております。

勤務以外にも日本の思い出はたくさんあります。新型コロナウイルス感染拡大が世界的に大変ですが、家族と一緒に安全に生活しています。週末は近所のいろいろな公園に行って遊ぶことができます。その上、九州に名所

やとても綺麗な場所が沢山あって景色の美しさを楽しみました。私たちがこれまでに行った大好きな場所は、長崎市、愛媛県の松山市、夜にイルミネーションがあった高知城、台風が接近した後の鶴戸神宮、などあります。一生忘れられない思い出を作るチャンスに感謝しています。これからも帰国するまでの間、日本の生活を家族と一緒に堪能しながら頑張ります。今後ともよろしくお願い致します。



Pond at Shimin no Mori Park



「江ノ電と江の島」  
作:宇山佳男OB

## 航空自衛隊コーナー from Koku-Jieitai

世界経済フォーラム（WEF）は、「2021年世界男女格差レポート（Global Gender Gap Report 2021）」において、日本の男女格差の度合いを世界156か国中120位に位置付けた。また、昨今の日本における女性蔑視問題の報道が大きく世界に取り上げられ、日本における「男

女平等観」に世界から疑問の目が向けられている。

そこで、航空自衛隊における「女性の活躍」に関する取り組みについて、航空幕僚監部人事教育部からの寄稿を下記に紹介する。

防衛省では、17年（平成29年）に「女性自衛官活躍推進イニシアティブ — 時代と環境に適応した魅力ある自衛隊を目指して —」を策定して、女性自衛官の活躍を推進するための理念的な方針を明らかにした。また、女性自衛官の配置に関しても順次見直しを行い、18年（平成30年）には、「母性の保護」の観点から女性が配置できない部隊を除き、配置制限を全面的に解除した（「令和2年防衛白書」より）。それによって、航空自衛隊では女性戦闘機操縦者が、海上自衛隊では女性潜水艦乗組員が、陸上自衛隊では女性空挺隊員が誕生した。これからも男女共同参画によって国防の任を盤石に推進されんことを祈念する。  
(池田理事記)

## 「航空自衛隊における女性自衛官の活躍にかかる取組状況」

寄稿

航空幕僚監部人事教育部人事教育計画課人事教育計画調整官  
1等空佐 金野 浩子（現 第9航空団整備補給群司令）

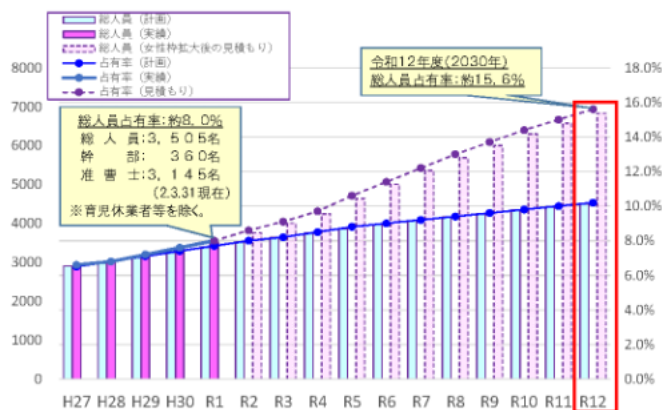
### 【防衛省における女性自衛官の目標比率】

防衛省においては、令和3年度以降の採用者に占める女性の割合を17%以上とし、令和12年度末までに全自衛官に占める女性の割合を12%以上とすることについて決定され、令和3年度以降の女性の活躍等の取り組みについて定めた「防衛省における女性職員活躍とワークライフバランス推進のための取組計画」に反映されました。

### 【航空自衛隊の女性自衛官比率】

令和2年度当初の航空自衛隊における女性自衛官の割合は約8%です。令和3年度における空自の自衛官採用者に占める女性の割合は約20%、この採用規模を継続することで、令和12年度には空自全隊員に占める女性の割合は約15.6%となる見込みです。

なお、平成27年度より女性の採用枠を撤廃（自衛官候補生を除く）しており、それ以降の女性の平均採用実績は、一般幹部候補生（一般）で20%弱、一般曹候補生で30%程度となっています。



航空自衛隊の女性自衛官の在職者数推移 (予測)

### 【航空自衛隊における人材確保の考え方】

防衛省が、女性自衛官の採用率、占有率の目標を設定し、目標に向けて採用を増やしていくという考え方であるのに対し、航空自衛隊は新たな領域における能力を獲得し、複雑化していく任務に対応するために、性別を問わず能力のある人材を確保していくという考え方に立っており、現在唯一男女の枠を設けている自衛官候補生についても性別に関わらず優秀な人材を採用していけるよう、態勢の整備を継続しております。

### 【女性自衛官は全ての特技 ※、様々な場面で活躍】

(※) 全特技が開放されているものの、現在女性がいない特技もある。



(↖) cyber-related work



(←) disaster response



(↓) commander of the honor guard in the Inspection of Air Review 2020



First female fighter pilot in the history of Koku-Jieitai (second from the left)

【離職の防止が鍵】

女性自衛官の採用拡大に加え、一層の活躍を推進するためには、離職の防止が大きな鍵となります。現在、女性自衛官の退職率の平均は男性よりも高く（過去5年間平均で男性1.5%、女性3%）、年代別では、結婚、出産、育児などのライフイベントが発生する25歳から39歳の女性の離職率が高くなっています。その一方で、24歳以下では男性の離職率が高く、40歳以上では男女同程度です。

このため、まずは、出産、育児期の支援が重要となってきます。各種制度の普及、利用促進に加え、女性自衛官自身と女性自衛官の配偶者の約8割である男性隊員の意識改革、家庭への積極的な関わりを推進しています。

【育児に対する意識改革】



「育児」が「人」を育てる

イタリアの社会起業家が、「子育てはMBA(経営学修士号)のようにスキルを身につける経験」と表現しました。子育てでは、予期せぬことが次々起こり、それに素早く対応する能力が求められ、共感性や効率性、創造力、頭の回転の早さ、時間管理能力など、リーダーシップに必要なスキルが身につけられるということです。また、子供の世話をすることにより、男女関係なく脳に変化が起こり、愛情深くなることが実証されているそうです。特に男性は、気持ちを伝えること、人の話を聞くこと、共感する力が高まったことを感じるそうです。

大なり小なりチームで業務をこなす航空自衛隊において、リーダーシップは多様なレベルで求められる大変重要な資質であり、コミュニケーション能力もチームワークを高め、円滑かつ効率的に業務を進めるために不可欠です。

育児休業を取得することに、不安を持つ方はまだまだ多くいると思います。「周囲に迷惑をかけないか。」「同期に遅れをとらないか。」「長期間休んで、復帰後ちゃんと仕事ができるのか。」「ブランクでスキルが低下しないか。」などなど。

でも、今日から発想の転換をしましょう。「育児休業」を「職務に還元できるスキルを身につける機会」と捉えてみてください。人生の中で、もっとも実務的かつ毎日が真剣勝負の場が学ぶのです。育児休業を経験した隊員は、きっと一回りも二回りも成長しているはず。育児休業を取得する隊員も、彼らの復帰を待つ職場の同僚も、その変化が楽しみになるかもしれません。「育児」は、「人」を育てるのです。



人事教育計画調整官 1等空佐 金野 浩子



「男女共同参画推進等ハンドブック2021」と金野 1 佐執筆の掲載コラム

【「育児」が「人」を育てる】

子育てでは、予期せぬことが次々起こり、それに素早く対応する能力が求められ、共感性や効率性、創造力、頭の回転の早さ、時間管理能力など、リーダーシップに必要なスキルが身につけられると言われます。

今日から発想の転換をし、「育児休業」を「職務に還元できるスキルを身につける機会」と捉えてみてください。

第6回日米人事教育担当部長協議

日米人事教育担当部長協議は、米空軍参謀本部の人事教育担当部長等と協議を実施することにより、主に人事教育分野に関する諸問題について意見交換を行うとともに、人的な繋がりを構築・強化し、日米相互の信頼関係を強化する目的で、平成22年度以降、隔年事業としてこれまで5回実施しております。

いずれも、空幕人事教育部長が渡米し、空軍参謀本部、シンクタンク、航空教育訓練コマンド等を訪問しました。

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に係る入出国時の停留措置のため、米国出張を取り止め、初めてVTCにより実施しました。

今回は、冒頭、空幕人事教育部長から、T-38墜落事故でなくなられた日米の若き操縦者に対して哀悼の意を表



Lt Gen Brian T. Kelly, Deputy Chief of Staff for Manpower Personnel and Services (A-1) and his staffs



Maj Gen Takuto Ogasawara, Director General, Personnel and Education Department and his staffs

するとともに、事故後の米空軍の温かい対応に感謝を伝えた後、「女性自衛官の採用拡大と定着について」及び「人事管理業務へのAIの活用について」の2つの議題について大変有益な意見交換を実施し、今後の資を得ることができました。

## 米空軍コーナー from 5th Air Force

前号の米空軍コーナーでも紹介した ACE (Agile Combat Employment : 迅速機敏な戦闘展開) 能力向上に向け、第二次世界大戦後使われていなかった飛行場を活用した訓練をコープ・ノース 21 において実施したと報じた米第 5 空軍の記事を紹介する。その飛行場には、アラスカから F-35 も飛来し ACE 訓練に参加したことが記事の中で述べられているとおり「理論的な概念だった」ACE が実戦的な訓練に移行したことがうかがえる。  
(浅井理事記)



ACE training is a key component of CN21 and aims to give U.S. Airmen and Koku-Jieitai partners the knowledge and skills to hot pit refuel a jet in an austere environment

### Misawa fighters “ACE” trilateral exercise CN21

<https://www.5af.pacaf.af.mil/News/Article-Display/Article/2514728/misawa-fighters-ace-trilateral-exercise-cn21/>

2月3日～19日、第35戦闘航空団(35FW)の230人を超える隊員と15機のF-16は、コープ・ノース21(CN21)の『リード・ウィング』としてグアムのアンダーセン空軍基地に展開した。CN21は、米豪日3か国の関係を強化し、最終的には、インド・太平洋全体の安定と安全を促進する重要な毎年恒例の演習である。CNは、1978年に三沢基地で四半期ごとの二国間演習として設立され、1999年にアンダーセンAFBに移り、米太平洋空軍最大の多国間演習として長年にわたって進化し続けた。

CN21演習ディレクターであるHutchinson大佐は「CN21では3か国の枠組みで達成すべき10の目標があるが、包括的な目標は、安全で効果的な大規模戦力運用、人道支援、災害対応活動を計画・実行することにより、航空自衛隊、豪州空軍、米空軍の即応態勢と相互運用性を高めることだ。CN21の重要な目的は、簡易的な場所でACE能力を発揮することだ」と述べた。第13戦闘飛行隊(13FS)はグアム州ノースウエスト・フィールド(NWF)への6回のACEミッションを成功させた。同飛行隊は、第二次世界大戦以来この飛行場に着陸した最初の戦闘機部隊となった。

NWFは、アンダーセンAFBの北西側のジャングルを切り開いて造られた簡易的な飛行場であり、長さは8,000フィートに満たず、多少の駐機スペース、誘導路、格納能力を有し、地表面のマーキング、照明は最低限で、恒久的な飛行場管制機能は有していない。

ACE訓練はCN21の重要な要素であり、日米の訓練参加者に、制約のある環境下でホット・ピット・リフュエル(注:エンジン作動状態での給油)を行うための知識とスキルを提供することを目的としている。これは、太平洋空軍が危機や災害対応の際の制限された状況下で敏捷性、抑止力、回復力を確保するための、新しい戦闘コンセプトである。

ACE訓練の間、13FSのパイロットは、仮設敵機として

飛行し、その後、NWFに着陸した。彼らはアンダーセン危機管理対応中隊と協力して、F-16を素早く駐機し、着陸したC-130Jスーパー・ハーキュリーズのブラダー・タンクから給油した後速やかに離陸してアンダーセンに戻ることによって、簡易的なフィールドに航空機を着陸させ給油し迅速に再出撃する能力を検証した。

13FS隊長のCichowski中佐は、「我々は着陸、給油、再出撃を迅速に行うことができた。また、このようなNWFでのACE訓練には、13FSが合計6ソーティ飛行し、他の参加は何機かのF-35のみであった」と述べた。

NWFは、航空機の運用にとって理想的ではないが、ACEを訓練するには最適な場所である。CNにACEを組み込むことで、隊員は、訓練してきたコンセプトを、母基地における設想ではなく、実際の簡易的な場所で適用することができる。

「我々は依然として、ACEを行う上で何が可能・不可能かを表すエンベロープ(包絡線)をテストしている状況であるが、これまでは、整備されていない領域に飛び、迅速に給油・再兵装し、飛行に戻ることは理論的な概念だった」とCichowski中佐は述べた。

演習間に飛行した合計252ソーティは、第35整備群の隊員なしでは不可能であった。彼らはすべてのミッションのため航空機を準備し、13FSは実際に飛行させた。

「35FWはこの演習の『リード・ウィング』であり、それを見せつけた。私たちは、必要なソーティと飛行時間を確保し、修理し、演習をリードした。運用や整備に当たる隊員は完璧にチームを組み、計画されたすべての訓練を実行することができた。私たちのチームは、三沢で常に維持しようと努力している高いレベルの即応態勢を示す素晴らしい仕事をしていると思う」とCichowski中佐は強調した。

(浅井理事仮記)

## 米空軍協会（AFA）主催「V-ASCC2020」 （Virtual Air, Space & Cyber Conference 2020） 参加成果について（その2） 「V-ASCC2020」Participation Report（a follow up）

JAAGA だより 59号で、米空軍協会（Air Force Association：AFA）主催バーチャル・カンファレンス「Air, Space & Cyber Conference」（以下 V-ASCC2020）の参加報告（概要）を掲載した。例年であれば、訪米団がワシントン D.C.で実地に参加する会議であるが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を克服する代替策として、バーチャルの場で開催されたものである。今号においては、航空自衛隊に対する JAAGA としての説明会と、前号に比しより詳細な参加成果について、荒木淳一理事から投稿を受けたので、紹介する。  
(木村理事記)

### V-ASCC2020 参加成果の航空自衛隊への説明について 「V-ASCC2020」Participation Report to Koku-Jieitai

V-ASCC2020 への参加成果を、更に有効に活用してもらうため、齊藤会長を始め関係理事が、空幕、幹部学校等を訪問し、説明会を実施した。

12月7日、齊藤会長、福江理事長、前原・荒木（淳）理事が市ヶ谷を訪問し、航空幕僚監部において、谷嶋防衛部長を筆頭とする課長等以上の方々に対する説明会を実施した。その後、井筒空幕長、阿部空幕副長への表敬を行い、成果の概要について口頭で報告した。

12月10日には、荒木（淳）理事が目黒基地を訪問し、空自幹部学校長柿原空将を表敬の後、柿原学校長を始め航空研究センター長杉山1佐を含む20名以上の関係者に対して、地下指揮所での説明会を実施した。プレゼン資料を使った説明の後、質疑応答に移ったが、予定していた時間を30分近く超えても質問が途切れないなど、活発で有意義な意見交換の場となった。説明会終了後、柿原幹部学校長から改めて JAAGA による V-ASCC2020 への参加と貴重な情報提供に対して感謝の言葉を頂いた。

これ以外にも、横田基地の総隊司令官内倉空将を含む総隊司令部の関係者に対しても説明の機会を設けるべく調整を進めていたが、コロナ感染症の状況の推移が見通せないこと、更には横田基地への立ち入りに関する米空軍の様々な規制事項もあり、残念ながら横田基地において説明会を実施することはできなかった。しかし、防衛部長鮫島空将補を通じて、総隊司令官等にプレゼンの説明資料並びに成果報告書を業務の参考としてお渡しすることができた。鮫島防衛部長には司令官への報告を始め細部の調整に多大なご支援を頂いた。改めてこの場を借りて感謝申し上げたい。

2021年度の JAAGA 訪米事業に関しては、現時点でコロナの影響によって訪米の可否、ASCC2021への参加の可否について未だ不明である。しかし、令和2年度の経験から、バーチャルなカンファレンスであっても参加することにより、米空軍、米宇宙軍の最新の動向に関わ

る貴重な情報が入手できることから、バーチャルであっても参加できるよう調整したい。また参加後は、速やかに成果をとりまとめて、関係部署に提供できるよう努力して参りたい。  
(荒木（淳）理事記)



Director Araki calls on Lt Gen Kakihara, Commandant of Air Command and Staff College (Col Shizu, the Center for Air and Space Power Strategic Studies presents beside)



Scenery of Briefing



Commandant Kakihara gives a speech of thanks to Director Araki after the briefing

## V-ASCC2020 への参加成果について (その 2)

### 「V-ASCC2020」 Participation Report (a follow up)



注：文中の役職等は、カンファレンス開催当時のものである

#### 1 はじめに

本稿は、JAAGA 便り (第 59 号) において概要報告した米空軍協会 (AFA) が主催するバーチャルのカンファレンス (V-ASCC2020) に参加した成果について報告するものである。昨年 9 月に開催されたこのカンファレンスは、コロナ・パンデミックの影響によりバーチャルでの開催であったが、米宇宙軍が空軍省隷下の新設軍種として初めて参加するものであるとともに米空軍の動向を理解する上で大変有益な場であった。

概要については既報告のとおりであるが、筆者は次の理由からも、本カンファレンスへの参加は大きな成果があったと考えている。まず第一に、米国の戦略文書 (NSS2017、NDS2018) に示された米国の軍事的優位性が脅かされつつあるという問題認識並びに対中スタンスの転換 (「関与」から「競争」) が明確に確認できたことである。次に、中国からの様々な非対称の挑戦に対して、「競争し、抑止し、勝利する」ためには、軍事的優位性を堅持することが不可欠の要件であり、そのために米軍の戦い方のみならず国防省・空軍省レベルでの総合的な変革が必要であると認識されていることが理解できたことである。つまり、中国との戦略的競争を勝ち抜くために、「何を：What」、「何故：Why」、変革するかという問題認識が明らかになることで、将来に向けた様々な取り組みの方向性、「どのように：How」が理解しやすくなるからである。

バイデン政権に移行後 100 日が過ぎたが、「修正主義国家」である中国との「戦略的競争」を勝ち抜くという強い決意は継承されている。コロナ・パンデミックの影響により、国防予算について更に厳しい状況が米国でも続くことが予期される。しかし、予算の抑制・削減の継続は、米軍・米空軍の変革の速度を遅らせることはあっても、方向性を大きく変えるものではないと思われる。何故なら、米国の危機意識は強烈であり、問題認識と解決のためのアプローチに変化が無い限り、今の方向性で様々な改革が進められると考えられるからである。米空軍参謀総長ブラウン大将が就任に当たり提示した白書「変化を加速させるか、負けるか (Accelerate Change

or Loose : ACOL) 」も変化を躊躇しないマインドとスピードを強調している。

本稿では、まずエスパー国防長官、バレット空軍長官 (当時) 等の基調演説などから、国防省、空軍省レベルにおける問題認識や対応の方向性を概観する。次に米空軍における主要な取り組みのうち、①統合全領域作戦 (Joint All Domain Operation : JADO) への取り組み、②宇宙軍の創設と宇宙領域の取り組み、③サイバー領域を含む情報戦 (IW) への取り組み、④その他 (コロナ対応と人への取り組み等) に関して、主要幹部の発言及びパネル・ディスカッションから興味深いポイントを紹介したい。そして最後に、V-ASCC2020 で示された米空軍等の問題認識やその取り組みが航空自衛隊に何を示唆するのかについて私見を述べてまとめたい。

#### 2 成果の概要

##### (1) 国防省、空軍省レベルの問題認識等

##### ア 主要な問題認識と取り組み

エスパー国防長官 (当時) は、国家安全保障戦略 (National Security Strategy : NSS) 及び国家防衛戦略 (National Defense Strategy : NDS) で示された「不都合な真実」とも言える問題認識を本カンファレンスにおいても強調している。それは、米国が享受してきた圧倒的な軍事優位性が中国の非対称な挑戦によってもはや所与のものではなくなったということである。特に地球規模の精密な ISR 能力と長距離精密打撃力によって、何時でも何処でも獲得できると考えてきた軍事作戦の前提である航空優勢が、中国の A2/AD 能力によって維持できなくなるリスクに言及している。やや誇張された見方とする意見もあるが、A2/AD 能力のみならず宇宙・サイバー領域における挑戦もあり、冷戦終結以降長らく想定してこなかった同等の競争相手国とのハイエンドな戦いにおいて、湾岸戦争の様な圧倒的で至短時間の勝利を確約することが難しくなっているのは事実であろう。



エスパー国防長官



失われつつある軍事的優位性を再獲得するため、全領域において能力の拡大・強化と同時に、イノベーションを実現できる組織文化を発揮して、国防省レベルでの改革を進める必要があるとしている。米軍の作戦が大きく依存する宇宙領域の優位性を維持することは必須の要件であり、宇宙の作戦領域化や宇宙軍の独立等が進められており、これまでの進歩を高く評価している。

JADO の追求が NDS2018 実現のための最優先事項であるとの認識が示されている。対中国の軍事戦略や統合の作戦概念について様々な議論がなされてきたが、ゴードフィン前空軍参謀総長が主導してきた JADO の概念が国防省内でも共有されてきたことを示すものである。JADO 実現のためには、軍種、システム、装備品の区別を越えて全ての領域でデータ交換やデータ融合ができるネットワークの構築と AI 等に支援された指揮・統制 (Command & Control : C2) が不可欠であるとしている。このため AI、5G、クラウド等を使ったデジタル化を国防省内で進める必要があり、米空軍がこの流れを主導し変革を進めていることを評価している。

また、中国の軍民融合のアプローチによる技術覇権の追求と軍事力への応用に対抗するためには、装備品等の研究開発や調達にかかるプロセスの改革が必要であると述べている。特に情報通信技術や AI 等の先端技術に関して、民間企業における技術進展の速度に追従できなければ、対等の競争相手である中国に対する優位性を維持できないとしている。

### イ 空軍省としての問題認識と戦略的取り組み

バレット空軍長官 (当時) は、空軍省として戦略的に取り組んでいる四つの優先分野の進捗について説明している。その第一は、米宇宙軍の創設であり、第二は同盟国・友好国とのパートナーシップの強化、第三はイノベーションによる近代化、そして最後に強いリーダーと家族の育成をあげている。



バレット空軍長官

空軍省にとって最優先課題の宇宙軍の創設は、宇宙領域における脅威の高まりと宇宙に大きく依存することによる米国の脆弱性に関する危機意識の現れであり、宇宙領域を担ってきた米空軍/空軍省にとっての最大の変革である。初代米宇宙軍作戦部長レイモンド大将のビジョンとリーダーシップ並びに米空軍の全面的な協力によって、そのプロセスが順調にかつ迅速に進んでいることを高く評価している。

同盟国とのパートナーシップは、NDS2018 において中国に欠ける米国の相対的な優位性の一つと指摘されており、空軍省として積極的にその強化を促進していることが窺える。

イノベーションによる近代化の推進は、戦略的競争相手に先んじて最先端の装備品等を開発、調達、装備化することによって優位性を維持しようとするものである。このため、研究開発・調達等の一連のプロセスを抜本的に見直す改革を主導しているのが、空軍長官補 (当時のローパー博士) である。アマゾン共同創始者であるベゾス氏の言葉、「機敏に変化し続けることによってのみ優位性が維持できる」を引用し、空軍省においても能動的な変革を継続しなければならないと述べている。映画



ローパー空軍長官補 (調達等)

「マトリックス」のストーリーを引き合いに出し、心地よい仮想空間で満足することなく、厳しい現実を直視し、受け入れ、立ち向かうべきとしている。

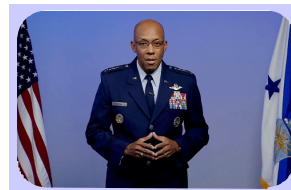
特に空軍省におけるデジタル工学を使った調達プロセス改革においては、F-1 レース・カーの開発で実使用されている「デジタルツイン」を使ったバーチャルな世界での研究、開発などの革新的な手法を兵器システムに応用することを推進している。デジタル工学によって開発、装備化された装備品に、「e」という文字を冠してシリーズ化し、その手法を奨励しようとしている。

このような改革の背景には、中国の軍民融合のアプローチによって一部の情報通信技術で先行されているという意識と民間技術の革新スピードの速さから、従来の研究開発から装備化までのプロセスでは優位性を維持できなくなっているという認識がある。

以上のような技術を中心とした取り組みの一方で、バレット長官は強いリーダーと家族を育成する為に多様性と包括性を持つ組織文化を構築することを空軍省としての戦略的優先分野として挙げている。また、技術革新の推進者であるローパー博士も、任務完遂を真摯に追求する人が「機敏な変化」を作り出すのであり、その様な人を育成する組織文化とそうした人に資源投資するべきと述べていることには、注目すべきであろう。

### ウ 米空軍及び米宇宙軍における問題認識

国防総省以下での抜本的な変革の必要性と危機感を最も端的かつ素直に表現したのがブラウン大将の出した「ACOL」白書であろう。今この瞬間に自ら能動的に変化しなければ、中国との大国間競争のみならず、ハイエンドの戦いに敗北し、有能な部下を失うのみならず、議会・国民からの信頼を失い、国家安全保障を全うできなくなると述べている。このように強い危機意識に基づき、空軍全体で迅速かつ継続的な変化を推進させる強い決意を示している。米宇宙軍の創設



米空軍参謀総長ブラウン大将

(空軍からの分離・独立)という大きなチャレンジも空軍内の変化を加速させる絶好の機会と捉えている。

米宇宙軍作戦部長のレイモンド大将も同様の認識を共有している。宇宙領域における優位性を維持するための変革のみならず、宇宙軍創設そのものが国防総省、空軍省に変革を促すチャンスと捉えて変革を推進している。その上で、宇宙へのアクセスが従来の様に誰にも保証された共通の権利ではなく、力によって支えられるものとなったことから、作戦領域と捉えた取り組みが必要との認識を示している。



米宇宙軍作戦本部長  
レイモンド大将

また、宇宙関連のアセットは高価で、かつ官民の線引きが難しい上に様々な機関が関与していることから、宇宙関連アセットの調達に関わる改革が必要であると述べている。更に、宇宙領域においては、他軍種、同盟国、友好国とのパートナーシップが他の領域以上に重要であり、ミッション・アシュアランスの観点から情報共有のみならずアセットの相乗りなどによる能力獲得も重視している。

新領域と呼ばれる宇宙・サイバー・電磁(スペクトラム)の領域は、それぞれが密接に関連するとともにその能力発揮にはデジタル工学の識能が不可欠であることから、米宇宙軍はデジタル言語を基礎言語とするデジタル・フォースを目指すとの方針を示している。

## (2) 米空軍における主要な取り組みと方向性

本項においては、米空軍の主要な取り組みである次の四項目、①統合全領域作戦(JADO)、②宇宙領域、③情報戦(サイバー領域を含む)及び④人材に関する取り組み、の概要とカンファレンスにおける議論、発言のうち興味深い主要なポイントを紹介したい。

### ア 統合全領域作戦(JADO)への取り組み

#### (ア) JADO (JADC2 及び ABMS) の概要等

JADOとは、陸海空、宇宙、サイバー、電磁スペクトラムの全ての領域における能力を調和させ、最適のタイミングで総合的に発揮し、最大の効果をあげようとするものである。JADOは全領域のセンサーやシューターと指揮・統制機能をネットワークで繋ぎ、情報の共有や融合、戦術的な判断などをAIやML(Machine Learning:機械学習)に支援させることでOODAループを敵より圧倒的に速く回し、敵の状況認識や判断を飽和させ、対応が困難となるジレンマを強要することにより、優位な戦闘を遂行しようとする統合作戦概念である。この概念は、前空軍参謀総長ゴールドフィン大将が整理したドクトリン・ノート「JADOにおける米空軍の役割」(AF Doctrine Note 1-20、2020年5月)に示されている。

JADOの起源は、2010年代半ばから中国のA2/ADに対抗するために「第三のオフセット」を追求しようとした動きにある。冷戦期の欧州正面において、核戦力が均衡してきた状況で、東側の通常戦力の優位性を「オフセット」する必要がある、ステルス技術や指揮統制ネットワークと精密誘導兵器を融合させた「エア・ランド・バトル」と呼ばれる作戦概念で抑止力の担保を図ったことが、「第二のオフセット」とされた。中国のA2/ADに対抗する為の作戦概念を検討する中で、「エア・シー・バトル」と呼ばれる作戦概念が生まれ、その後、陸上戦力も加えた「エア・シー・ランド・バトル」となり、最終的には国際公財である海洋、宇宙等へのアクセスを担保するための統合作戦概念である「Joint Access Maneuver - Global Commons: JAM-GC」というドクトリンへと発展した。

その後も、宇宙・サイバー・電磁波領域を含めた全領域を活用した「クロス・ドメイン作戦」、「マルチ・ドメイン作戦」といった統合作戦概念が提唱されてきたが、主張する軍種やシンクタンクの視点は様々であり、レベルも戦略レベルから作戦レベルまで様々であり、議論が混迷しているような印象があった。しかし、戦略文書(NSS、NDS)によって軍事的優位性を再構築し中国との戦略的競争に勝つことが明示されてから、全ての領域における能力を総合的に最大発揮する新たな戦い方の必要性が再認識される中で、地球規模で作戦を行い、全ての軍種に能力を提供してきた空軍の提唱する考え方が主流となっていった。ゴールドフィン大将も当初は「マルチ・ドメイン作戦」を提唱していたが、徐々にネットワーク化とAI等による状況認識、判断の速さで敵を圧倒する作戦概念へと考え方を発展させるとともに様々な改革との整合を図り、JADOを主張するようになっていったと考えられる。その経緯を通じて、JADOは徐々に国防総省内における市民権を得るようになり、米空軍がリーディング・エージェント(主導機関)と認識されるようになり、NDS2018実現のための最優先課題として国防長官が位置付けるようになった。

このJADOを実現するため、5Gやクラウド等の最新情報通信技術を使って、情報の伝達、共有、融合、ネットワークへの加入、離脱を自動的にできるネットワークを構築する必要がある。そのネットワークを使って、AI、クラウド等の支援により、戦術的な判断、実行を自動化するネットワーク及びそこでの指揮・統制行為をJADC2(Joint All Domain Command & Control)と呼んでいる。このJADC2を支えるシステムが、先進戦闘管理システム(ABMS:Advanced Battle Management System)と呼ばれるものである。ABMSは元々E-3の後継機を開発するプロジェクトから拡大・発展したプロジェクトであり、JADOをより効果的に実行する

JADC2を支える戦闘管理システム構築を目指すものである。

### (イ) JADO (JADC2、ABMS) に関する主要なポイント

本カンファレンスにおける JADO (JADC2、ABMS) に関する発言や議論で興味深いポイントは以下の通りである。

① JADO は決して新しいものではなく、従来の統合作戦でもキル・チェーンや ROE 等で指揮・



JADC2に関するパネルディスカッション

統制を行い、統合作戦を実施していた。しかし、その指揮・統制プロセスは各軍種の「ストーブ・パイプ」(注：官僚的、組織の縦割りの弊害を表す米国風の表現) になっており、情報の共有や融合、判断や命令等に人が大きく関わっており脆弱であるとともに大きな時間と労力がかかっている。同等の競争相手との戦いには JADO が不可欠であり、その実現に対するシニア・リーダーの焦燥感、危機感が高い。

② NORAD/NORTHCOM が所掌する米本土防衛作戦

(HD) は、多くの政府機関に関わるマルチ・ドメインな特性を有しており、JADC2 の構成や ABMS の試行を実施し、一定の成果を上げている。NORAD のレガシー・システムを JADC2 に取り込むため、そのシステムの製造会社ではなく、データ処理技術に優れたスタートアップ企業と連携することで一定の成果を上げることができた。

③ JADC2 は単一企業だけではシステム構築も内在する問題の解決も困難である。まとまった一つのシステムとして作り上げるのではなく、オープン・アーキテクチャーとして各種技術を組み上げ、相互補完できる構成を目指すべきである。いずれ同盟国とも JADC2 の基準を共有する必要がある。

④ 実戦環境下では指揮所機能や C2 系統に残存性や強靭性が求められる。JADC2 の構築により、被害を受けても作戦を継続することが可能となる。

⑤ ABMS の現場実験は 1 回 / 3 カ月の予定で計画されている。産官学の専門家が今、手元にある技術と能力で実現可能なネットワークと C2 機能を組み上げ、実環境で試行することによって課題を発見し、その改善を図るプロセスを繰り返すことで、JADC2 や ABMS を実現しようとしている。

## イ 宇宙軍の創設と宇宙領域における取り組み

### (ア) 宇宙軍創設等の取り組み

米国は、レーガン大統領の SDI 構想の時代から宇宙

領域の重要性を認識し、具体的な活用を図ってきた。しかし、宇宙の平和利用の原則への配慮と脅威となる宇宙能力を有する国家がその時点では限られていたことから、抑制的な政策を続けていた。宇宙を使った初めての戦争と呼ばれる「砂漠の嵐」作戦の成功以降、宇宙領域への依存度は益々高まっていったが、2001 年の 9.11 テロを受け、米本土防衛を担う統合軍創設のために宇宙コマンドが廃止され、宇宙に関わる任務は米戦略軍に移管された。その後、2007 年に中国が対衛星攻撃能力 (ASAT) を獲得するなど宇宙領域における脅威が具体化するにつれ、宇宙における行動の自由を守る措置を取るべきとの議論がなされたが、政治的な配慮が優先され抑制的な政策は継続された。

この様な経緯を経て、米軍事作戦の重要な機能 (ISR、C2、GPS 等) が宇宙領域に依存する脆弱性を突こうとする中国の挑戦の顕在化によって、宇宙コマンドの再編、宇宙軍の独立への動きへ発展していった。その最大の要因は、対中政策の転換と中国との戦略的競争を戦い、抑止し、勝利するという戦略文書に示された強い決意と、その背景にある軍事的優位性が脅かされているという危機感であろう。

宇宙軍の独立と並んで高く評価されていたのは、宇宙領域を作戦領域とみなし宇宙コマンドの位置づけを変えたことである。2019 年には、宇宙コマンドが他の統合戦闘コマンドを支援する (Supporting) だけでなく支援される (Supported) 戦闘コマンドとなり、責任範囲 (AOR) が明示された。宇宙領域に関わるアセットの運用や戦闘コマンド司令官に対する機能の提供は 30 年以上の経験を有しているが、「支援 (Service, Support)」と「戦闘 (Warfighting)」は全く異なると歴代宇宙軍司令官達から指摘されている。宇宙領域関係者のマインドセットの切り替えが最も難しいとレイモンド大將は今年のシンポジウムで指摘しており、「民航機のパイロットに戦闘機の操縦を教えるようなもの」と表現していた。今年のカンファレンスにおいてはこの点の進捗が確認できる。作戦領域となった宇宙領域で戦う宇宙軍メンバー (ガーディアン) を「戦闘 (Warfighting)」のマインドセットに基づき、教育、訓練を体系的に行い、人材育成を進めるための施策が着々と実行に移されている状況が確認できた。

宇宙における様々な挑戦に対しては、① 軌道上に存在するアセットの防護、② 脅威に対抗できる戦力設計への移行、③ 反撃能力の獲得、が必要とレイモンド大將は述べている。



宇宙軍に関するパネルディスカッション

また、喫緊の課題としては、宇宙関連のアセットの調達改革と関係機関、軍種、国家間でのパートナーシップの確立強化であるとしている。

宇宙軍建設を更に実効的に進めるためには、デジタル工学の知識が大前提であるとして、宇宙軍はデジタル戦士、デジタル司令部、デジタル工学からなるデジタル・フォースを目指すと言っている。なお、このアイデアは、二人の若い中尉からの上申をベースにしたものであることを明かし、オープンな議論と幅広いアイデアを吸い上げる姿勢を強調している。また、デジタル・ネイティブな優れた人材を獲得し、育成するための人材育成・管理計画の策定にも言及している。

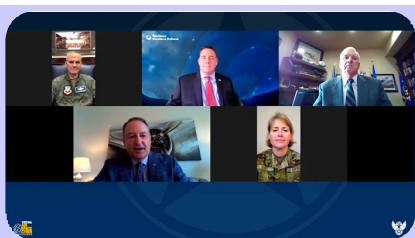
#### (イ) 宇宙領域に関わる主要なポイント

米空軍の戦争センター (**Warfare Center : WC**) 関係者とのパネル・ディスカッションにおける宇宙領域の取り組みに関わる議論、発言のうち興味深い主要なポイントは次のとおりであった。

① 米空軍の WC の機能のうち、宇宙領域に関わる機能は宇宙軍に移管された。米宇宙軍においても WC やウェポン・スクールの機能を整備する必要がある、引き続き米空軍 WC と連携しながら今後の戦い方となる JADO や JADC2 を前提とした訓練や試験の環境 (OTTI) を整えていく。

② 宇宙と航空で領域特性は異なるが、戦闘の本質は不変である。戦いの基本は脅威であり全ての教育、訓練の基礎となる。宇宙における戦闘機能は、1) 軌道作戦 (**Orbital Warfare : OW**)、2) 宇宙電子作戦 (**Space Electro Magnetic Warfare : SEMW**)、3) 宇宙戦闘管理 (**Space Battle Management : SBM**)、4) 宇宙アクセスと維持 (**Space Access and Sustainment : SAS**) の四つに区分される。各区分の基礎課程では、区分に関わる脅威を学び、上級課程では戦術や技術を学び、部隊においては実際に運用する兵器システムについて学習し運用に習熟するための訓練を重ねる。これは米空軍における教育・訓練プロセスと同じである。

③ 宇宙領域の専門性の高い知識技能を身に付ける人材育成の計画を策定中であるが、海兵隊の「Every Marine is a Rifle man」に準じた人材育成の基本理念を構築する必要がある。



宇宙に関する訓練等に関する  
パネルディスカッション

④ 特に費用の掛かる宇宙アセットの研究開発には、「デジタルツイン」等を活用したモデルベースのデジタル工学によって、

期間や費用を抑制できる可能性が高いことから、最大活用すべきである。

## ウ 情報戦 (Information Warfare) への取り組み

### (ア) サイバー戦と情報戦の融合

カンファレンスの主要テーマの一つとして掲げられた「サイバー領域」であるが、それだけをテーマとしたパネル・ディスカッションや基調講演は実施されなかった。このことが、今回の特徴の一つと言える。つまり、サイバー領域は宇宙領域と同様に作戦領域と位置付けられたことから、対応は必ずしもサイバー領域のみに止まらず、ISR や電子戦、情報作戦等と関連付けられて総合的な手段によって対応するという考え方に移行したと考えられる。中国との戦略的競争が、平時から武力攻撃未満、及び武力紛争の全てのフェーズにおいて、「三戦」を駆使する相手に対して、「競争し、抑止し、勝利する」ためには、相手の意図や能力に応じた最も適切な手段で対抗するという作戦的な考えが基本になっていると考えられる。

従来、情報戦 (IW) に関して、ISR、サイバー、電子戦という言葉を使ってきたが、それらに氣象を加えて「電磁スペクトラム作戦 (EMSO)」と呼ぶようになっている。最新のドクトリンでは「IW は、情報領域から、情報領域に対する、意図的な活動で、人間の行動に直ぐに影響を及ぼす活動」と定義されている。IW は、抑止も担う統合作戦機能の一つとして位置付けられている。

このような考え方を受けて、空軍省や統合部隊レベルでの組織・機能の再編を行っている。米空軍省においては A-2 と A-6 を統合、電磁波領域管理室 (ASMO) の A-2/A-6 への編入、第 24 空軍 (サイバー担当部隊) と第 25 空軍 (ISR、電子戦担当部隊) を統合して第 16 空軍 (サイバー、情報戦担当部隊) を新設したことが紹介されている。

第 16 空軍は、各地域の戦闘コマンドを支援するために、ISR、ターゲティング、氣象等の機能を提供するとともに、攻防両方のサイバー作戦を実施することとなっている。サイバー領域における適切な作戦対応のためには、情報分析による敵の行動の分析や ISR 能力による敵の能力の把握等によって初めて適切な対応が可能となる。ネットワーク防護のためには、敵の意図、能力、行動を分析した上で対応する総合的な手段の選択と能動的対応が不可欠である。

司令部 J-3 に情報戦に関する補佐をする部署 (J-39) を設け、日々の情報の中から情報戦としての選択肢を検討し、指揮官に提示している。戦闘コマンド指揮官がロシアの航空機の活動を公開したり、宇宙作戦部長が中国の宇宙アセットの特異な動きを公表するのもその一環である。

### (イ) 情報戦に関する主要なポイント

サイバー領域を含む情報戦 (IW) に関するパネル・ディスカッション等における発言、議論で興味深い主要

なポイントは次のとおりであった。

① 情報戦の分野は多様な専門スキルが集まり多様性があると同時に

IW 分野には人種、性別、宗教、年齢など多様性も求められる。したがって、軍事組織に求められる多様性や包摂性を受容しやすい職域である。



② A-2/A-6 は JADC2 を実現するために、ABMS 事業の推進、戦闘下における通信ネットワークの構築、センシンググリッド（軍種を越えた情報共有を可能とする座標基準）の整備などを担当している。ABMS は、センシンググリッドを通じてデータを集め、ビッグデータと AI による分析機能で処理し、複雑なデータ・ネットワークで分配、表示するシステムである。全領域を跨ぐ C2 に必要な連結性は、「Mesh One」、「Gateway One」等のプログラムによって実現される。

③ 第 16 空軍は、データを空軍全体で動かす能力を持っており、JADC2 に深く関連する。「Cloud One」、「Platform One」等のプログラムは、データを一つにまとめ、分析を可能にするとともにソフトウェアの開発段階からセキュリティの確保を可能にする。

④ 第 16 空軍の現時点（2020 年 9 月）における最優先任務は、2020 年に大統領選挙を防衛することである。以前は DOD の任務と考えられていなかったが、空軍がサイバー領域で行う最も核心的な任務となっている。

（\*実際に関係機関と連携し、大統領選挙で重要な役割を果たしたとされるが、細部は明らかになっていない。）

⑤ 米国の優位性は新たな技術を受け入れる能力と応用するスピードに支えられており、技術の変化に敏感でなければネットワーク環境を防護することはできない。防御的なサイバー作戦の場合、民間企業、他省庁・機関、パートナー国等との連携が必須である。敵は我々のシステムを熟知し、巧妙に騙し、誤解をさせるので、DOD 全体としてゼロ・トラストのアプローチを採る必要がある。

⑥ IW における情報の収斂のためには、関係するコミュニティを連携し機能させる必要があり、1) 競合防止 (De-Confliction)、2) 同調 (Synchronization)、3) 真の統合 (Integration) が必要である。

⑦ 民間企業に期待するのは、高い技術力 (AI、ML、ビッグデータ分析等) を応用した課題解決のスピードアップであり、ゲームチェンジングな技術の発見である。民間企業の技術力と空軍の力を融合させれば、より良い解決策を見出し敵に対する優位性を獲得できる。

エ その他 (COVID-19 への対応、人材育成等の人のケア)

コロナ・パンデミックの影響と米国内で発生した人種問題を受けて、カンファレンスの約 1/3 が米空軍内のコロナ対応とそれによる日々の仕事の変化、並びに空軍内における様々な違いを受け入れる多様性、包摂性の組織文化の構築に関連するものであった。

その中で特に印象に残ったのは次の二点である。

まず第一に、コロナ対応による日々の業務、教育・訓練、任務遂行等に対する姿勢である。コロナ対策を取りつつ、絶対に遂行しなければならない業務を見極め、それを着実に実行できるよう必要なシステムや規則を変えていくという任務最優先の考え方が採用されていた。米空軍内でもテレワークが推進されたようであるが、自宅でも職場と同じ仕事ができることが基本であり、業務上必要な情報やデータにアクセスできるようソフトやプログラムを変え、規則も変更しているとのことである。

テレワークに移行しても、コロナ前と変わらない質で業務が継続されている。結果として、コロナ終息後でもテレワーク可能な業務環境は整っており、それが個人の事情に応じた柔軟な勤務形態を可能にし、個人の生活の質向上、働きやすい職場として募集にも寄与すると考えられる。米国と我が国では事情が異なると諦めず、参考とすべき姿勢であろう。

第二に、国防総省以下で、中国との大国間競争に勝利するための様々な変革を打ち出しているが、どのレベルの施策においても人に対するケア、配慮が高い優先順位で位置付けられている。黒人への暴行に端を発する人種差別問題への対応のための多様性、包摂性を受け入れる組織文化を構築するための様々な取り組みもその一環である。各種の変革に応じた人材育成や家族支援などが必ず施策として組み込まれており、改革に対する不安解消や改革意欲の高揚にも寄与するであろう。本カンファレンスの目的の一つが米空軍、米宇宙軍のメンバーのプロフェッショナルリズム高揚と人材育成であることもあろうが、米空軍、宇宙軍における大きな改革と並ぶ重要なテーマが「人」であり、その姿勢は際立っているとの印象を受けた。

### 3 おわりに

以上、V-ASCC2020 に参加した成果の概要を、国防総省レベルから米空軍、米宇宙軍レベルの問題認識及びそれに応じた変革への取り組みについて概観するとともに、主要幹部の基調演説やパネル・ディスカッションにおける議論、発言の中の興味深い主要なポイントを紹介した。

最後に、今回確認できた米空軍等の問題認識や変革の方向性が空自に如何なる示唆を与えるかについて、私見を述べてまとめたい。

まず第一に、米空軍を含め米軍及び米国の安全保障戦略は歴史的な転換点にあるということである。その変革に向けたエネルギーとその基となっている問題認識と危機感（Sense of Urgency）を過小評価してはならない。中国の非対称な挑戦（A2/AD、地経学的アプローチ、グレーゾーンでの現状変更、軍民融合の技術覇権の追求）によって米国の圧倒的軍事優位性が脅かされていることに対して、従来とは異なるやり方で対抗しなければ国防の任を全うできなくなるとの強い危機意識が、国防長官から個々のエアマン、ガーディアンまで共有されているとの印象を受けた。「アメリカ」という巨大な船の針路を変えるには、巨大なモメンタムと一定の時間が掛かる。オバマ政権末期に米軍高官と中国に関する意見交換が政治的な配慮から上手くできなかった時代とは異なり、現状は既に舵が大きく切られ、触先が新たな針路を向き、全速力に加速すべく出力を最大値まで上げつつある段階である。防衛省／自衛隊のみならず我が国も、この動きから置き去りになってはならない。特に米軍の変革の中心は米空軍、米宇宙軍であることから、その改革の方向性を見極めながら、空自としての変革を加速させることが求められているのである。30大綱が「絵に描いた餅」にならないよう、「仏に魂を入れる」ために組織力を最大発揮しなければならない時期なのである。

第二に、米国のあらゆる政策の後ろ盾であった圧倒的軍事優位性が脅かされているという認識は、一般論として、米国が軍事的介入を躊躇するリスクが高まったということである。米中間の経済的な相互依存関係を考えると、米中間の本格的武力衝突を回避しようとするインセンティブは高くなる。つまり、米国による拡大抑止が機能しなくなるリスクが高まっているということである。加えて、INF全廃条約により生じた米中間の中距離弾道ミサイル等の能力ギャップや、迎撃困難とされる極超音速ミサイル等の開発の遅れは、通常戦力と核戦力のデカップリングを引き起こす要因になりかねないのが現実である。日米同盟の核を含む拡大抑止が実効的に機能することを確実なものに担保するスキーム構築の努力が、喫緊の課題となっているのである。安保条約5条の適用や「核の傘」に関する外交的な発言ではなく、抑止を効かせる具体的な政策が求められているのである。同時に、グレーゾーン事態でもある尖閣問題に適切に対処できる態勢を我が国自らが迅速に構築するとともに、台湾の武力による統一を抑止するための防衛力の強化と、日米共同作戦計画の策定と訓練・演習等を通じた能力向上等の、目に見える具体的な措置が急務である。

第三に、「第三のオフセット」を求めた様々な分野の改革の中心は、米空軍が主導するJADOであり、それを実現するためのJADC2の確立並びにABMS構築であると考えられる。その鍵は、全領域を跨ぐセンサーやシュー

ターの機能と指揮・統制機能のネットワーク化と、戦術判断の自動化、機械化である。我が国においても統合運用上の情報共有や指揮統制に関わる系統のネットワーク化を図っておかなければ、日米共同でのJADOは実施困難である。個々のセンサーやシューターを個別に米のJADC2に組み込むためには、多くの時間と費用が掛かることが懸念される。当面、総合ミサイル防衛体制の構築を進める中で、ミサイル防衛と防空を融合させるための指揮・統制系統等のネットワーク化、日本の統合運用上のC2確立を目指すべきであろう。

最後に、変革に伴う「人」に対する姿勢と考え方である。国防総省レベルから空軍レベルまで歴史的な改革に取り組んでいる現状において、その変革と連動した人材育成や構成員、その家族に対するケアの施策が、様々な改革と並ぶ重要な柱となっている。軍事組織における「人」の重要性に議論の余地はない。安全保障環境や脅威の変化に応じた任務の多様化や日進月歩する最新装備品を適切に運用できる人材を育成することの重要性に関して、異論はないであろう。他方で、自らの生命を懸けて任務遂行を求められる軍事組織特有の価値観を体得し、継承できる人材を育成するために、若者の価値観の多様化や社会規範の変化に応じた人材育成要領の見直しや改善を続けなければ、軍事組織として責務を完遂することはできない。少なくとも、実務を通じた人材育成を主軸とし、新規装備品の導入や運用化のプロセスを通じて人材育成を図る受動的なやり方から一歩踏み出し、各種変革や防衛力整備と並行した能動的な人材育成の在り方を優先的に検討すべき時期に来ているのではないだろうか。

日米の様々な違いは十分理解しながらも、米空軍が変革と同等以上に「人」を優先する姿勢であることが本カンファレンスを通じて確認できたことから、このような私見を持つに至った次第である。

米中の戦略的競争を基調とする安全保障環境は、益々厳しくなることが予想される。中国に対する戦略的競争に勝利するため米国は歴史的な転換点にあり、米空軍、米宇宙軍を中核とする米軍の戦い方も大きく変わろうとしている。彼らの問題認識や危機意識を理解しつつ、我が国、防衛省／自衛隊、空自も、従来の発想に捉われない変革を、スピード感を持って実行しなければならない時期に来ている。本稿が、益々厳しさを増す安全保障環境下において、空自が「真価」を発揮するための「進化」を遂げるために、少しでも寄与できれば幸いである。

（荒木（淳）理事記）

## 投稿募集のご案内

日米エアフォース友好協会（JAAGA）は、お蔭様で令和3年7月で創立25周年を迎えます。日米同盟の深化進展に伴い、日米両軍の絆はより強固なものに発展してまいりました。『JAAGA だより』も、JAAGA 活動の広報と空白、米空軍のサポーターとしての役割を、より一層充実発展させていきたいと考えています。

ご愛読の皆様からの投稿は大歓迎です。また、皆様の忌憚のないご意見やご感想も是非お寄せいただきたくお待ちしております。

### 【連絡先】

（郵便）〒160-0002 東京都新宿区四谷坂町9番7号

ZEEKS 四谷坂町ビル 3F

日米エアフォース友好協会 広報係

（メール）pubaffair@jaaga.jp

## 賛助会員の皆様へ

日頃から JAAGA 設立の趣旨に賛同され当会の活動にご協力いただき、ありがとうございます。

三沢基地、横田基地、嘉手納基地の研修に参加された賛助会員の皆様には、当方から所感文の寄稿をお願いし、研修の意義のみならず JAAGA の多様性をも噛みしめられるような味わい深い所感を頂戴しているところです。

このような寄稿に加えて、法人、団体、個人の賛助会員の皆様からの投稿も、幅広く募集しております。

テーマは自由、1件につき JAAGA だより 1 ページ以内程度（400～2,000 字程度）、写真、図表等を含めていただいても結構です。細部要領等は広報係からご連絡いたします。

JAAGA 入会に至った経緯、企業・団体の概要、個人の活動等の概要、JAAGA に対する要望、航空自衛隊・米空軍に対する貢献活動等、日米現役隊員に対する期待・激励等、思うところを自由にお書きください。

賛助会員の皆様の積極的な投稿を、お待ちしております！

### 【法人賛助会員の皆様】 34 社

株式会社 **IHI**、株式会社 **IHI** エアロスペース、株式会社石橋オフィスサポート、伊藤忠商事株式会社、有限会社エイム、株式会社エクシオテック、川崎重工業株式会社、**KYB** 株式会社、株式会社シー・キューブド・アイ・システムズ、新明和工業株式会社、株式会社 **SUBARU**、住友商事株式会社、双信商事株式会社、双日株式会社、東京航空計器株式会社、東芝インフラシステムズ株式会社、株式会社日商ファイナライフ、日本電気株式会社、日本飛行機株式会社、ノースロップ・グラマン・ジャパン、株式会社日立製作所ディフェンス営業本部、富士通株式会社、洲上建設工業株式会社、**Boeing Japan** 株式会社、丸一土地建物株式会社、丸紅エアロスペース株式会社、三菱重工業株式会社、三菱商事マシナリ株式会社、三菱商事株式会社、三菱電機株式会社、三菱プレジジョン株式会社、株式会社武蔵富装、横河電機株式会社、ロッキード マーティン グローバル インコーポレーテッド

### 【団体賛助会員の皆様】 2 団体

ハイフライト友の会、三沢市防衛協会

### 【個人賛助会員の皆様】 88 名

日米現役の皆さんを応援する「JAAGA だより」を更に多様性に富んだ充実したものにするためには、会員の皆様のご協力が必要です。投稿頂いた方には記念として、

「JAAGA グッズ」（男性にはタイピン、女性にはピンブローチ）を謹呈させていただきます。

JAAGA だよりを私たちと一緒に作っていきましょう！

JAAGA 広報係



タイピン



ピンブローチ

# JAAGA理事の活動紹介

## 渉外理事

「JAAGA 理事の活動紹介」第3回目は渉外理事です。渉外は、理事総勢7名で担当しており、所掌業務として米空軍、航空自衛隊その他部外との連絡、調整に関することを行っています。

今回は、渉外理事の主な事業の一つとして、横田基地における米空軍式典等及び友好親善行事への参加について紹介します。例年の横田基地における JAAGA に関連する行事と実施時期等は次のとおりで、各事業等の実施後 JAAGA ホームページや年間2回発行の JAAGA だよりにおいて行事参加状況の細部を JAAGA 会員の皆様に報告させていただいているとおりです。

- ・ スペシャルオリンピックス：5月下旬
- ・ 基地司令官指揮官交代式：6～7月頃
- ・ フレンドシップ・デイ：9月中旬
- ・ エアフォース・ボール：9月中旬
- ・ JAAGA 米軍基地等研修：9月～10月頃
- ・ SPORTEX'：11月及び3月頃
- ・ オープンハウス：12月上旬
- ・ 7クラブ合同による新年会：1月上旬

渉外理事は、各種行事の参加に当たり日時や実施場所を確認することから始まり、JAAGA 役員等への参加案内、参加者の調整、基地への通知、基地立ち入りや車両申請手続きの実施、行事への参加及びその後行事概要の記事等投稿などを各米軍基地渉外班等と調整しつつ行っ

**渉外理事の所掌業務**

- ・ 米空軍、航空自衛隊その他部外との連絡、調整に関すること

**渉外理事の主な担当事業**

- ・ 米空軍軍人の日本文化研修支援
- ・ 米空軍軍人の地域行事等支援  
(スペシャルオリンピックス)
- ・ 米軍基地等の研修
- ・ SPORTEX'
- ・ 米空軍式典等及び友好親善行事への参加

ています。

基地渉外班等へ急ぎの調整事項等があり、朝から電話をしても一向に誰も電話に出ず連絡できない状況でおかしいなと思ったら、当日は米国の休日で米軍基地全体が休日であったということがありました。またクリスマスカード等の郵送において、バーコード追跡機能のあるレターパックを使用して送ったところ米軍基地郵便窓口で受け付けてもらえず、何度もこちらの手元に戻ってきたり又は最寄りの日本の郵便局止めとなったり、郵便事情も異なり何が原因なのかわからず困ったこともありました。最終的に通常の普通郵便で郵送したところ米軍基地内の相手に届けられたので、レターパック等のバーコード追跡機能がある郵便物は、米軍基地郵便窓口では受け取らないということだと思われませんが、本当は何が問題であったのか未だによくわかりません。在日米軍基地は、日本国内に存在する米国であることを改めて認識させられました。



Air Force Ball



SPORTEX'



Friendship Festival





昨年度は、コロナ感染拡大の影響のためほとんどの米空軍式典等及び友好親善行事は中止されました。本年度以降もしばらくは同様の状況が予想されますが、コロナウイルス感染拡大の早期の終息を願いつつ、米軍横田基地をはじめ三沢、嘉手納基地渉外班等と各種行事への参加準備や調整を抜かりなく進めて、航空自衛隊と米空軍との相互理解及び友好親善に寄与する各種行事等を推進できるよう努めていきたいと思ひます。JAAGA 会員の皆様の各種行事等へのご参加を心よりお待ちしております。

最後に、これまで平成 14 年から 18 年半にわたり横田基地担当渉外理事としてご活躍いただいた阪東理事が、本年 5 月をもって退任されました。阪東前理事の長年にわたる JAAGA 渉外理事としてのご貢献に心から感謝いたしますとともに、今後益々のご健勝とご活躍を祈念したいと思います。ここに阪東前理事の寄稿「JAAGA 渉外のノスタルジック」を掲載させていただきます。

(岩本理事記)

## 「JAAGA 渉外のノスタルジック」 (渉外理事 阪東政詮)

私が渉外理事の案内を頂いたのは、平成 14 年が明けて直ぐのことでした。当時渉外を担当されていた林昭彦理事から電話で「君は、昨年 11 月に着任された第 5 空軍ワスコウ司令官と、司令官が 5 空軍作戦部長の頃からの付き合いがあり旧知の仲と聞いている。JAAGA 渉外担当理事として協力するように」と言うことでした。横田基地への足の便は意外と悪く、私の自宅や通勤経路等から横田基地へのフットワークの良さを生かしたお手伝いならできるとか・・・そして、今に至っています。

私の 1 年後に来られた新井洋一理事とは「お互いこれから 10 年以上 JAAGA とお付き合いすることになりそうだね」と・・・本当になりました。

当時の役員会や理事会には、JAAGA 創立から 5 年位経た頃だったので、創立に努力された役員や理事の方々も数多く参加されておられました。主な検討議題としては、JAAGA 活動の周知、JAAGA の会員拡大等色々で、最も皆さんで頭を寄せ合ったのは「JAAGA の活動項目と内容」でした。既に、米空軍基地の主要行事等への招待や案内は頂いていましたが、「JAAGA がスポンサーをできる行事等はどのような内容か」ということでした。当時既に、現在の JAAGA 行事として定着している内容は概ね議題に遡上していましたが、それぞれの行事に、米空軍側の理解を得るための米空軍指揮官への会長からのレターを、林昭彦理事が作成されていました。横田基地には林理事と何度か伺いました。その後は、榎利美理事と他の理事とともに伺いました。皆さんご存知のジャネット・コールマンさんを通じて 5 空軍司令官へのアポ取りを都度にお願ひしました。374 空輸航空団へは、既に定年退職された基地広報部の阿部正雄さんにお世話いただきました。

日米間で総論賛成各論反対の状況になることもあり、特に米空軍現場担当者の調整会議に参加を求められることもありました。一方、米空軍との良好な関係作りにはフェイス・ツー・フェイスの関係維持が不可欠であり、米空軍行事に JAAGA 役員や理事の参加が望めない場合は、新井理事、石川武正会員及び山岡康義正会員に協力を頂いたのを思い出します。

20 年以上の時を経て、航空自衛隊はもとより米空軍それぞれ皆様のご理解の深まりを得て個人的にも多大なご協力を頂けるようになってきているのはうれしい限りです。これからも腰の据わった JAAGA 活動になることを祈念しています。



Final participation in JAAGA annual convention, 2021



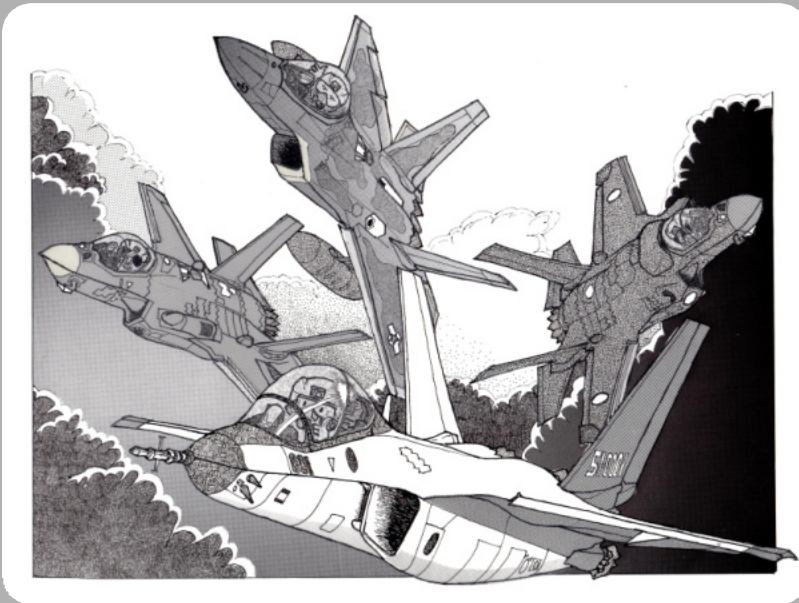
Friendship Festival in Yokota AB



SPORTEX' 18A

## 令和3年度 JAAGA 事業計画

事業項目/実施時期		1 四			2 四			3 四			4 四		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
日米隊員の激励等	共同訓練（海外）参加隊員の激励等（RFA、CN22）	←→									←→		
	日米隊員の表彰										←→		
	日米隊員の交流活動等激励（日米相互特技訓練）				←→						←→		
米空軍軍人の日本研修等支援	日本文化研修支援（防大留学米空軍士官候補生）				←→			←→					
	地域行事等参加支援（スペシャル・オリンピックス）	横田 5/22			三沢								
JAAGAと航空自衛隊・米空軍との交流	SPORTEX' 21（多摩ヒルズ）							←→ 21-A			←→ 21-B		
	指揮官交代行事等への出席及び来日米空軍関係者の接遇	←→									←→		
	米空軍協会（AFA）総会への参加等				←→								
	在日米空軍各基地との連携の強化	←→									←→		
	米空軍慶弔への対応	←→									←→		
	関係団体との交流（JANAF、横田7クラブ等）	←→									←→		
	米空軍慶弔への対応	←→									←→		
広報及び広報協力	日米要人等の講演										←→ 空幕部長等		
	米軍基地等の研修							←→ 横田			←→ 嘉手納		
	日米安保等に関する広報活動（米空軍広報記事を会報に掲載）	←→									←→		
	会報の発行・配布	←→									←→		
	一般広報（広報誌等への投稿・情報提供等、ホームページの運営、盾・グッズ等の贈与、パンフレットの作成）	←→									←→		
総会等	○												
運営管理	会勢の拡大等（会員の拡大、支部との連携）	←→											
	組織基盤の整備等（事務所の運営、備品類の整備）	←→											
	会員名簿の作成・配布										←→		
	役員会（★）及び理事会（☆）	☆	☆	★	☆		★	☆	☆	★	☆	☆	★
	監査	（R4.3）											
その他	創立30周年（令和8年）記念行事のための積立												



「The ステルス」  
作：富岡幹博会員

## 令和3年度 JAAGA 役員

※ 青: 役職変更、赤: 新任  
 ※ 理事欄: 最左翼に筆頭理事、  
 続いて入会順に記載

職名		氏名	
会長		杉山良行	
副会長		谷井修平、福江広明、上田知元	
監事		内山隆弘、山本祐一	
理事	理事長	小野賀三	
	副理事長	前原弘昭	
	企画	平本正法、平塚弘司、荒木淳一、武藤茂樹、山田真史、増子 豊	
	総務	前原弘昭(兼)、新谷和也、大浦弘容、深瀬尚久、長田国男、渡邊博史、山倉幸也(兼)、岡本兼一(兼)、井上浩秀、荒木文博、三谷直人	
	渉外	岩本真一、藤田信之、吉田浩介、川口泰志郎、村田圭史、岡本兼一、長島 純	
	会員	今瀬信之、西村弘文、山倉幸也、野澤隆一	
	広報	木村和彦、福永充史、池田五十二、浅井 玲、竹内由則、太田 徹	
	財務	吉川礼史、大岩卓弥、平元和哉、宮本裕徳	
支部役員	支部長	丸山 泰(三沢)	丸野礼治(沖縄)
	支部事務局長	山本親男(三沢)	相原弘介(沖縄)
顧問	岩崎 茂、齊藤治和、丸茂吉成、小野田治、山崎剛美、平田英俊、石野次男、福井正明、清藤勝則 尾上定正(在米特任)、四ツ家邦紀(ホームページ担当特任)		

## JAAGA 役員退任者

職名	氏名
会長	齊藤治和
副会長	中島邦祐、清藤勝則
監事	日吉章夫
理事	阪東政詮、伊藤 哲

## 新入会員紹介

正会員 (Regular Member)

氏名	住所	氏名	住所
増子 豊	東京都西東京市	安永幸生	福岡県春日市

## 会 員 募 集

- 今期は、関係各位のご努力で、新たに正会員 2 名の入会を得ることができました。
- 3.5.31 現在、正会員数 255 名、個人賛助会員数 88 名、団体賛助会員数 2 団体、法人賛助会員数 34 社となっております。
- 今後とも、会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。なお、本会への入会につきましては、次のとおりです。  
推薦若しくは情報提供を頂いた方には、直接会員担当理事から連絡させていただきます。

### 【入会資格】

正 会 員：航空自衛隊の OB

賛 助 会 員：航空自衛隊の OB 以外の方。正会員 3 名の推薦が必要です。

### 【連絡先】

郵 便：〒160-0002

東京都新宿区四谷坂町 9-7 ZEEKS 四谷坂町ビル 3F

日米エアフォース友好協会 会員係

メール： [membership@jaaga.jp](mailto:membership@jaaga.jp)

## 【 編 集 後 記 】

- ◇今号も 58 号、59 号に続き、完全テレワークで作成しました。1 年間やってみて、何とかなるものです。しかし、顔を合わすこと無く個人個人でメール主体の編集業務を行っている、しばしば孤独感に苛まれます。そんな時にふと浮かんでくるのが「千里同風」。10 年前の国難に立ち向かった航空自衛隊の合い言葉は、現下の国難への対応にも力を与えてくれるように感じます。
- ◇CN21 の記事から、コロナ禍の制限下で敢えて訓練が実施され、しかも多大な成果を収めたことが伝わってきます。空自が参加中のレッド・フラッグ・アラスカ演習については、次号でお伝えします。24 時間 365 日、真摯に任務遂行にあたる日米現役の皆さんの姿に、心強さと感謝を覚え、かつてそこに身を置いていたことが誇りに思えます。JAAGA だよりでは、日米現役の皆さんの姿を正しくお伝えし、紙面から応援していきます。
- ◇挿絵で彩りを添えてくださった宇山佳男 OB（江ノ電と江ノ島）、富岡幹博会員（The ステルス）、山本康正 OB（日々笑進）、いつもありがとうございます。
- ◇新型コロナワクチン接種の普及、社会のルールの変化、一人ひとりの意識と創意工夫により、61 号が発行される頃には、違った景色が見えるようになっていきますように。東京 2020 大会も無事終わっていることを祈念します。そして、テレワーク編集も、・・・。

※ ※ ※ 以下、編集担当者の感想を紹介します。※ ※ ※

- ◇2ヶ月以上の過酷な編集業務でしたが、現役時代に培った抗堪性のおかげで、倒れることなく楽しんでます。毎号毎号、辞書を引き資料を読み込み、大いに勉強させてもらっています。(K)
- ◇航空自衛隊、米空軍、そのサポーター、それぞれの立場の方がご努力を積み重ねて日米空軍種間の相互理解と協力関係が強化されてきました。感謝の気持ちを忘れないで進んでいくことが大切だと強く感じました。(F)
- ◇名将上杉謙信は「必勝のコツはないが、チャンスを逃すな」と遺しました。航空自衛隊及び米空軍は、有事における少ないチャンスを生かせるようにこのコロナ禍にあっても不満足な環境下での訓練を実施して共同即応態勢を堅持しているんですね。(I)
- ◇担当した米空軍コーナーにも出てきた ACE は、現役時代に関わったことがあり、やはり重要な能力であったと感慨深いです。(A)
- ◇コロナ禍の中でも『実動』した「総会」及び「米第 5 空軍への非接触型体温計贈呈」の記事を担当し、現場の状況を的確に記録（憶）すること、また雰囲気伝わるような記事に仕立てることの難しさを痛感しました。(O)



作：山本康正OB

編集担当（広報理事）：木村和彦、福永充史、池田五十二、浅井玲、太田徹  
(次号から、竹内由則新理事が加わります)

JAAGA だよりは、JAAGA ホームページからご覧いただけます（創刊号から第 49 号までは、「20 年の歩み」に掲載）。